

因果物語



明治

日經

九月廿一日

發賣本館

東京

各公債

取

出

公告

上午	七時	五分
下午	二時	十分
晚	七時	十分

日本

銀行

公告

明治十七年三月

山田

山田

山田

山田

山田

山田

[Heavily faded and illegible text on the right page]

洋書店 廣瀬、大坂、各古屋支店

活版製造所 京都橋區佐相文昌堂

大島采 萬一達し本館の幸慶之入選

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

活版製造所 京都橋區佐相文昌堂

洋書店 廣瀬、大坂、各古屋支店

大島采 萬一達し本館の幸慶之入選

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

新評 第二集 毎月一回

鳳文 支館 同

同 支館 同

本館 定價 四十錢

馬鹿部活三敬白

各公債証金銀貨買所

出船公告

支那桑田大

日延取消廣

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

各公債証金銀貨買所

出船公告

支那桑田大

日延取消廣

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

各公債証金銀貨買所

出船公告

支那桑田大

日延取消廣

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

各公債証金銀貨買所

出船公告

支那桑田大

日延取消廣

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

三月廿三日

手紙

佛

ラザルニ至ラン是レ實ニ日本人民ヲ増
 結果ヲ生ズベシ是レ其ノ四ナリ
 ノ難事アリ海關稅ヲ徵收スルニ是ナリ
 ガ今日ノ事情ヲ察スルニ如何ニ我邦ヲ
 ナラシメントセラルノモ決シテ海關稅
 而シテ民間ノ經濟思想ハ未ダ其點
 見ザルナリ然ラバ則テ外國貨物ノ輸入
 海關稅ヲ徵收セザルベカラズ然レモ我
 々ニ海關稅局ヲ設置スルトキハ其費
 ヲ益ナキニ因リ是非トモ從來ノ如ク條
 約ヲ徵收スルノ制ヲ存セザルベカラザル
 不ダ歸化セザルノ外國人ニ向テ條約港ニ
 船スルヲ禁止スルノ制規ヲカルベカラ
 稅ニ輸入シ若クハ無稅ニ輸出スルノ懼ア
 約港ト條約港トノ間ニ沿海貿易ヲ試ムル
 べカラズト雖モ條約外ノ港灣ニハ沿海
 カラズ是レ吾輩ガ外國商人ニ對シ設ク
 規ナリトス然レモ我が法律ニ從テ結社
 於テハ素トヨリ密商ノ患ナキニ因リ此
 リ一方ニ此ノ自由ヲ與フルキハ亦外國
 シムルノ誘導トナランカ
 ノ商業國ナリ地形ノ便ナル舟楫ノ利ヲ
 ナシ西ニ亞細亞ノ大陸アリ東ニ亞墨利
 此ノ二大陸ハ不盡ノ富源ヲ有セリ其間ニ
 ル其國何ゾ富マザランヤ況ンヤ其地味
 テ天然ノ物産モ亦僅少ナラザルナヤ吾
 ニ日本ノ通商ヲ旺盛ナラシムルハ左マ
 ナリ獨リ今日ノ有様ニ於テ通商旺盛ヲ
 膨脹シ他日國權上ニ大害ヲ發スベキノ
 シヤ故ニ早ク内地雜居ヲ許シ其害ヲ未
 急務ナリ
 同一ノ血脉ヨリ成ルモノノミヲ以テ構
 日本人種ノ如キモ既ニ三韓支那歐米ノ
 多ク血脉純一ナランヲ期スルハ到底望
 然レバ則テ他日雜血ノ人民我が王室ノ

亞
 バ
 トヤ
 民ノ聚
 ナ居留
 彼ヲ取
 ナイ
 如キ内地雜居ノ事實アルモノナリ内外結婚
 ノナリ而シテ人民毫モ其有害ヲ感ゼザルニア
 ヤ東洋ノ諸國ハ大半居留地ニ因テ自ラ亡滅
 ナ憂フル者ハ須ラク深く鑑ムル所アルベキ

禁錄

鷺ノ鷺

漁史ガ隅田ノ庵ハ秋葉ノ森ニ續キタル小園
 ハ田圃ノミナレバ殊ニ物靜ナル故年毎ニ春風
 リ鷺鷺ノ多ク來テ軒端ニ轉リ朝戸出ノ一與
 セリ然ルニ此ノ三四年ハ鷺ノ聲稀レニナリ行
 毎ニ本意ナク思ヒシニ今年ハ復タ昔ニ變ハ
 ノ梅ニ來テ鳴ケリ何故久ク疎カリシモノハ今
 歸リ來スラント思フニ全ク彼ノ跡ヲ云フ
 ニ恐ロシキモノハ此比我が近村ニ於テ禁レラ
 リケリ漁史ハ銃獵セシテ無ケレバ能クモ知
 鷺ノ如キ小鳥ヲ打テモ何ノ用ニモナルマシク
 ノ殺風景ナルヲハ誰レモ知り給ハンナレバ
 ノ敵トハヨモ思ハレズ此鳥ノ畏レテ出テ來
 ノソレ玉有ランヲ氣遣カフ爲メカ何ハ兎
 近隣ニ危キ彈丸ノ飛ブテ全ク止ミテ鷺ノ朝
 クモソ嬉シケレ漁史之ニ銃ヲ思フニ凡ソ物
 爲メトカ又我が事ヲ成サントカ各思フ所有リ
 モ圖ラズ其ノ目ザス物ノ外ニ其ノ利害ヲ及
 非ズ譬ハ遊獵ノ人ハ鴨ヤ雉ヲ獲ント走り廻
 スニ相違無ケレド之ニ關係無キ鷺マデモ之ヲ
 カス様ニナリ行クヲ見ヨ世上ノ事此類甚ダ多
 設ケ律ヲ定メテ以テ暴客兇鬼ヲ制伏セント

此
寫
與
必
長
和
出
入
家
事

無
進

此
以
細
進

公
得
發

十二

月
月
月

月
月
月

月
月
月

愛知芸術文化センター
愛知県図書館

佛^{ブツ}祖^ソ世^セニ出^{イデ}種^{シユ}ノ方^{ハツ}便^{ベン}ラ垂^ダレ
譬^ヒ喩^ユ言^{ゴン}詞^ジヲテ苦^ク因^{イン}果^{クワ}ノ道^{ダウ}
理^リヲ説^{セツ}示^シ給^{タマ}フト去^イ氏^シ年^{ネン}代^{ダイ}深^シ
き^クニシテ^シ傍^{ヘン}スル者^{モノ}少^スキ也^ヤカ^カニ
正^{テイ}三^{サン}衣^イ人^{ジン}因^{イン}果^{クワ}在^レ然^{ゼン}ノ理^リ面^{メン}
事^{コト}氏^シ記^キ認^{ニン}テ以^{シテ}請^{シヨウ}入^ニ發^{ハツ}心^{シン}
ノ便^{ベン}ト^ト多^タク^クヤ^ヤ誓^{チカフ}師^シ者^{モノ}日^{ニチ}大^{ダイ}

来^キ危^サ如^{ゴトキ}子^ツヲ^{カタル}諸^{ゴトニ}毎^セ周^{ワウ}横^{コト}子^{コト}
ヲ^キ聞^ス捨^{スル}スルハ^ム每^{カウ}色^シ心^イ至^イ也^セ末^セ
者^{モノ}如^{ゴトキ}是^{カク}子^ツヲ^{モテ}以^テ不^ス救^スシテ^{ナニ}何^{ナニ}ヲ
以^{モテ}力^ス救^スヤト云^フ是^{コト}ヲ^{アツ}集^ムハ^ニ誠^ニ哉^{カチ}
念^シ業^{ゴフ}ニ^{ヨツ}因^{ヨツ}テ^ク苦^{ラク}樂^シヲ^{ギキ}送^{タチ}忽^チ相^{アイ}酬^{ハク}
一^{ヨシ}念^{ヨシ}自^{ヨシ}因^{ヨシ}テ^ニ成^ニ佛^ニ隨^カ獄^{ゴク}之^{アリ}一^チ念^チ
一^シ執^シ因^{ヨツ}テ^{フシ}惡^キ靈^キ鬼^シ神^シト^{ナリ}成^{ナリ}一^チ念^チ迷^{ヨシ}

二^{ヨツ}因^{ヨツ}テ^{モツ}多^ク劫^{ゴフ}輪^{リン}迴^エト^{ナリ}成^{ナリ}子^{コト}眼^{ガン}安^{ゼシ}ニ^{カキ}
記^シセリ^{コト}殊^{コト}ニ^モ妙^カ物^カ持^リハ^カ元^{ゲン}亨^{コウ}釋^{シヤク}也^{シヨ}砂^{シヤ}石^{シヤク}
集^シニ^{スル}衆^{シュウ}所^{トコロ}ヨリ^モ證^{セウ}披^ヒ正^{テイ}シテ^{シヨ}初^{シヨ}心^{シン}人^{ヒト}
為^{タマ}ニ^{タリ}大^{ダイ}業^{ゴフ}アリト云^フ氏^{タリ}只^{タリ}今^{イマ}現^{マデ}在^ニ在^ニ人^{ヒト}
假^ケ若^ニ有^リ之^レ以^テ故^ニ門^{カド}人^{ヒト}望^{カク}秘^ヒシテ^{シヨ}世^ヨ
不^ス出^ズ也^シ世^ニ造^ス犯^ス者^{アリ}リ^カ竊^{ヒソカ}ニ^{シテ}取^ル
乱^{ミダ}ニ^{シテ}校^シ行^フス^{コト}割^カ工^カ私^シニ^{シテ}序^{シヨ}分^{ブン}ヲ^{ナシ}作^ス造^ス

他物誇ヲ難入シテ人ヲ瞞スル事
 不少斯ニ於テ弟子等止コトヲ
 不^ス少^ス斯^ニ於^テ弟^子等^止コト^ヲ
 不^ス少^ス斯^ニ於^テ弟^子等^止コト^ヲ
 邪^レ本^レ義^ヲ破^シト欲^ス若^レ人^邪
 ヲ捨^テ正^ニ敏^セハ善^提ノ勝^勢
 此^ニ在^ヤ寛^文亭^也仲^秋日
 豊^陽文^住山^下ニ庵^ス歩^和南^題

因果物語上之目錄

- 一 亡者人ニ便吊ヲ頼事 付 夢中ニ吊ヲ頼事
- 二 幽霊夢中ニ僧ニ告テ塔婆ヲ書直ス事 付 經書寫請事
- 三 幽霊夢中ニ人ニ告テ僧ヲ請スル事 付 血脈ヲ乞事
- 四 人ヲ詛僧怒チ報ヲ受ル事 付 火灸ノ報ノ事
- 五 妬深女死シテ男ヲ取殺ス事 付 死シテ蛇ト成男ヲ卷事
- 六 嫉深女死シテ後ノ女房ヲ取殺ス事 付 下女ヲ取殺ス事
- 七 下女死シテ本ノ妻ヲ取殺ス事 付 主人ノ子ヲ取殺ス事
- 八 愛執深女忽チ蛇躰ト成事 付 夫婦蛇ノ事
- 九 夫死シテ妻ヲ取殺ス事
- 十 罪無シテ殺サル者怨灵ト成事
- 十一 女生灵夫ニ怨ヲ作事

- 十二 塚焼ル事 付 塚ヨリ火玉飛出ル事
- 十三 生ナガラ地獄ニ落事 付 精魂地獄ニ入事
- 十四 弟ノ幽霊兄ニ怨ラ成事 付 兄婦ニ付事
- 十五 先祖ヲ吊サルニ因テ子ニ生來責事 付 孫ヲ喰事
- 十六 難産ニテ死シタル女幽霊ト成事 付 鬼子ヲ産事
- 十七 幽霊來テ礼ラ言事 付 不吉ヲ告ル事
- 十八 幽霊來テ藏ラ守ル事 付 亡父子ニ告テ山ヲ返事
- 十九 善根ニ因テ富貴ノ家ニ生ル事
- 廿 臨終能人ノ事

目錄ヲ安スニ因テ年代前後又當時現在人其名ヲ除者多也

因果物語上

義雲 雲歩 同撰

一 亡者人ニ便テ吊ラ頼事 付 夢中ニ吊ラ頼事

東三河千兩ト云村ニ茂右衛門ト云者アリ。子共三人、冥ニ取
 殺サレ四人目ノ子ニ取付口走テ。我ハ此屋布ノ主也。信玄野
 田ノ城ヲ攻給時、雨山村ヘ落行ラソ。坂ニテ追詰テ討シタルカ。
 今ニ脩羅ノ苦患堪カタキ故ニ此屋布ニ祟也。吊テ助ハ此
 子ヲ活サント云。茂右衛門聞テ。何ト吊申ベシ。好給ト云ハ。唯
 今死タル如ク。禪宗ノ知識ヲ頼棺幡天蓋ヲ作。鈸鼓ニテ野送
 シ。下火念誦ニテ結縁シテ。懺法興行シ給ト云。茂右衛門急
 妙巖寺ヘ行テ。牛雪和尚。此由頼和尚。則チ正保二年七月
 三日ニ茂右衛門。薨ユ御出有テ。好ノ如ク吊給。一兩日過テ。又
 茂右衛門。斗ナル子ニ付テ。口走吊。故哀早資リタリ。我名

ハ、鵜ノ彦蔵ト云者也。願屋布堺ニ古塚アリ。注ノ石取道テ有。其石ヲ以テ本ノ如塚ヲ築給ヘト云。和尚指圖シテ塚ヲ築セ給ヘハ、其ヨリ能収タリ。牛雪和尚ヨリ直談ニ聞也。○西三河阿林陀堂村ニ善兵衛ト云者ノ門屋ニ貧女アリ。娘ヲ三人持死シテ後娘ニ付酒ヲ願テ飲ケリ。娘モ程ナク死ス。二七日目ニ善兵衛婦屋布ノ茄子出来タラ見テ下女ニアノ茄子ヲ一ツ食度思ト云。下女易キ事也トテ二ツ切テ與ヘケレバ是ヲ喰テ口走テ云我死骸ニ土ヲ掛コト疎也死シテ二七日ニナレトモ火ヲ燵シ香華ヲ手向ル者無故ニ闇サハ暗シ飢渴ノ苦ハ忍ビ難シ。茄子ヲ喰度思ヘ人與ヘ子ハ喰シズ下女ニ言シモ叱ヤセト思テイワズ唯今下女切テ與ル故望ヲ叶ヘタリ。只依草附木ノ精霊トナル斗也。アラウラヌレノ一向坊主

ヤ。如何様ニモシテ清僧ニ吊セテ給ヘカレ。龙有ハ何寺ヘ也。氏行當次第ニ手向ノ水ヲ受ベキ也トサメクト泣他テ頼ケル故所ニ無智ノ僧有ラ呼施餓鬼ヲ誦セ火ヲ燵シ水ヲ手向吊ヒケレハ早速ニ婦本復シ重テ祟コト無地下中ノ男女集此苦患ヲ語ラ聞ト其座ニ在リシ者カタル也。○江戸北七太夫父ノ三十三年忌ニ三日能ヲ為是ヲ佛事トス。突夙ニ父目前ニ來テ云能佛事ノ功ハ大切ナレ。是ニテハ佛果ヲ得難シ。願ハ禪宗ヲ頼ミ懺法ヲ讀吊給ハ速ニ佛果ヲ成スベシト。即好ノ如佛行ヲ成趣ニ父亦夢ニ告テ懺法ノ功德ニテ成佛ヲ遂タリト云テ礼謝ス。夫ヨリ子七太夫モ禪宗ニ成タリ。七太夫子息ヲ堺ノ何某ト云禪門養子ニシ置ケル。權七ト云者。二語ル。德首座聞テ語也。○蒲生飛彈守。來北河監物ト

云人牢人ノ時。女房奥列ニテ死ス。三歳ニ慈娘ヲ伴テ。肥後ノ國へ下賀藤殿工有付頓テ女房ヲ求ケリ。此女房彼ノ娘ヲ憐コト浅ラス。然ルニ本ノ女房子ノ守ニ取付テ。唯今ノ内儀我娘ヲ愛シ給コト。泰ト礼ヲ云コト。度々也。然間子守ノ祈禱ニ般若ヲク。亦山伏ヲ以テ加持ス。切々也。然ル二十五日。其日程有テ。亦ハ取付口走ケル間。後ニ禪宗洞家ノ去寺ニテ。施餓鬼ヲ行。焚シ。未治ス。監物女房ノ兄弟中。鳴嘉内行テ。汝ハ机カ狸ナルベシ。我兄弟ニテハ有ニシ。ニクイヤツメカナト云ケ。ト。全ク偽ナレ。我物カキテ。證據ヲ見セト云。去バトテ。硯筆料紙ヲ與ケレバ。子守ハ無筆ナレ。筆ヲ取テ書ニ。其儘姉ノ手跡ナリ。扱ハ疑ナレ。其時其方ハ奥列ニテ死タル者ガ子ノ守ニ付テ。煩ス。ト。以下ノ僻コト也。隨分ノ侍ノ娘ナルニ。何トテ加様ニ。愚

癡強ゾト云。ノ耻メケレバ。我死スル時。アカ又別ノ悲。少シノ妄念。今ニ残テ如此也。ト云。扱吊タル品々ノ功德報タルヤト問ハ。皆々存知タリ。夫ハ行者。凡我等ヲ畏シテ行故ニ。功德ナレ。流長院ノ施餓鬼。清浄ニテ水ヲ請タリ。然レ。凡長老。眞實ニ憐ム志ナキ故。佛經ノ功德斗。中途ニテ受タリト云。長老請龍能ハ成佛スベシヤト問ハ。老也ト云。即寺へ行。長老ニ此由具ニ語頼入ケリ。長老合点ノ死タル時。如龕ヲ拵ヘ。野邊送リシ。下火念誦作法ニ急度吊給。其後亦腰本使ノ。女ニ取付口走。唯今妄執ノ苦患ヲ離シテ。淨ブ也ト云ナリ。○攝列。富田町ニ喜右衛門ト云者アリ。弟ハ雲居和尚ノ教化ヲ受善提心發故ニ。父ノ讓リ銀ヲ買。同有ケルヲ。兄ノ喜右衛門ニ渡ス。喜右衛門。我々モ所買。同銀請取故ニ。商本キアリ。其方善

提ノ爲ニ遣ヘカレト云イハ親讓ラハサト遣テ不義也若用
所アラハ遣ベレ先々ト云テ渡故ニ兄請取商ノ豊二世ヲ送ケ
リ角テ寛永二十一年三月喜右衛門煩付末期ニ及時弟來
テ臨終ヲ勸メ往生ヲ遂サセケリ近村ノ者江戸へ商ニ行ケ
カ箱根山ニテ彼喜右衛門出向我宿へ傳言セント云何事ソ
ト問バ我遺財ヲ以能々吊ヲ作シ給工飢渴寒熱ノ苦患限ナ
シ日々冥供茶湯ヲ手向僧ヲ供養スベレト云注ナクハ叶ベカラ
ズト云バ著物ノ衣ノ袖ヲ渡ス彼者是ヲ持取テ一門中ニ見セ
テ言傳ノ趣委ク語ケレハ驚キ手ヲ拍テ即導師ニ告様々
吊ヒケリ陰ナキ也

二幽冥夢中ニ僧ニ告テ塔婆ヲ書直ス事 書寫ヲ請事
尾列智多郡天外長老相識ノ弟子七本卒都婆ヲ鹿嶋ニ

書ケレバ住持ノ夢ニ彼亡者告テ家弱ノ雨風ニ夕エ願ハ
強ク成テ給ヘカレト云テ起ケリ夜明テ七本卒都婆ヲ見
玉ハ文字鹿嶋ニ走書也即書直シ立ケリ夫ヨリ彼弟子驚
テ塔婆ヲ真ニ書ケリト天外和尚ノ物語直ニ聞ナリ捨ノ佛
行ハ眞實ノ志ヲ以勤ヘキ也眞實ノ志無ハ何ノ功德モナク
剗惡業ノ回トナルヘシ○周防國府中河原ト云處ニ幽霊多シ
ト云ヘリ彼ノ村ノ庄屋彦九衛門ト云者ノ處へ恭村ト云僧一
宿ス夢ニ若キ女ノ裳ヲ血ニ染成タルガ來テ經ヲ書テ吊ヒ
御結縁有レト云不思議ニ覺テ夢醒タリ暫アツテ現ニ彼女
來何ゾト云ハ必經ヲ書吊ヒ給ヘト云魔鬼クノ物云フ不叶
守リ居タルニ縁ヨリ飛出テ行夜明テ亭主ニ語レバ夫我娘
難産ニ果タリ幸命ニ息日也年比珍遣スト云テ歎ク也

泰村モ俄ニ經ヲ書ク。法華經五ノ卷ヲ讀帛タリト語
ケリ。正保四年ニ聞寛永ノ始ノ事也

三幽冥夢中二人ニ告テ僧ヲ請スル事 付 血脉ヲ乞事

小田原氏直ノ乙名某或時主君氏直公ノ二十三年忌ヲ吊
テ欲時夢中ニ氏直來彼乙名ニ向テ。汝ガ心替故我亡ビタリ。
汝逆心ノ恨ハ云斗ナレ。去今我忌日ヲ吊ト思フ祝著テ
リ。焚ラハ只湯ノ澤ノ山居僧ヲ供養スベシ。其子細ハ彼和尚
毎朝念比ニ。法界ヲ憐ミ。生飯ヲ取給フ。夫ガ届キ毎朝食ス
ル故ニ終ニ餓鬼ノ苦ヲ免レテ居也。是ニ何レ御礼申ヘキ様ナ
シ。矣聞此和尚ヲ念比ニ馳走シテクシヨト也。乙名夢覺則彼忌
日ニ山居ノ和尚ヲ慇懃ニ供養セト也。是久キ物語ナレトモ
送テル也。爰ヲ以思フ。出家ナトハ生飯ヲ取ズ牛馬ノ物喰

様ニメタト喰苦ニアラス。眞實ニ生飯ヲモ取り。眞實ニ法界

ニ回向スベキ也。○上野新田玉眼院守作長老門前ノ老

婆日比血脉ヲ望メ凡何角延引ス。老婆程ナク死ス。長老終ニ

血脉ヲ授ケズ引導シ給。五日過テ日暮ニ彼老婆來テ茶堂

ニ居ス。長老云ク。汝ハ死シタルカ何トテ來ヤ。答云日比望申御

血脉ヲ授給。長老實允也トテ。室間ニ入テ。認メ授給ハ御利

益ニ預ケ。忝ト悦テ頂戴ノ云。貪女ナク何ニテモ布施物ナレ

持合ケルトテ。錢三文獻スル。請取給ハ即失テ影モナレ。不思

議也。去塚ヲ見セ給ハ血脉塚ノ上ニ有守閨ト云。庫裡坊主ハ

長老血脉ヲ認給中。老婆ト向居タリ。長老後ニ守閨ヲ呼出

シ。愚國和尚ニ語給我愚國和尚ヨリ聞ク也。寛永六年ノ也
○三列賀茂郡九牛平ノ内梅カタワト云村ニ何某ト云者ノ

女房膳ノ病ヲ受。七十日ノ間。食スルヲ叶ワズ。種々養生祈念ヲ
トスレ。氏治ス。此時。匿崎ヨリ。朝日ト云。ミコヲ喚ヨリ。立祈ラセ
ケレバ。ヨリ口走テ。我ハ百五十年前。此屋布ヲ取立タル主也。
死ノヨリ。此方世界ニ居所ナク。餓鬼ノ苦ヲ受也。便ル處ナキ故
ニ。此屋布ヲ便リ。此女ニ付。命ノ義ハ取。我ヲ吊。フテク
レヨト云。時ニ望。ヲ叶。ン間。何ニテ。吊。フヘキカ。望。メト云。ハ足助ニ
香積寺ト云。寺アリ。彼寺ノ住持。本秀和尚ノ血脉ヲ申請
施。餓鬼ヲ頼。ミク。レヨト云。則香積寺ニ使。ラ立。頼。ム和尚。即血脉
ヲ授。下。火。ヲ爲。使。ノ者。ニ向。テ。其方ニテ。火。ヲキ。ヨメ。食。ヲ炊。キ。新
レキ。天目。三ツ。盛。一。盃。ハ血脉。一。盃。ハ万。一。盃。ハ病人。ニ備。ヘ。二
門。共。盡。ク。ヨリ。念佛。申。ヘ。レ。晚。ノ五。ツ。時。分。ヨリ。爰。元。ニテ。吊。フ
間。尤。様。ニ心得。ベ。レ。若。病。者。食。ヲ好。ク。有。ハ。其。病。者。ニ備。ヘ。タル。

食ヲクワスベシト云付テ返シ給フ。其夜施餓鬼ヲヨミ。眞實ニ
吊ヒ給フ。然ルニ彼病者其夜四ツ時分食シ。則彼ノ一盃ノ
食ヲ與。モ。ハ。皆。食。マ。カ。喰。ハ。ント云。ニ。血脉ノ食。ヲ。半。分。ク。ワ。ス。レ。バ。
病者トロクト眠入。明日四時分。テ。イ。子。起。テ。本。復。シ。行。水。ス。
餘能治リケル。故親類共彼朝日ヲヨヒ。口ヲ倚ケレバ。口走テ。我
百五十年流轉。セ。レ。ニ。御。吊。故。ニ。苦。患。ヲ。離。タ。リ。能。御。礼。申。テ。ク
レヨト云。彼親類共礼ノ爲。香積寺へ來。其後山中ニテ。本秀和
尚具ニ語リ給。折節。我弟大坂ヨリ來。合テ。肝ヲ消。便。本秀和
尚ノ血脉ヲ授。テ。飯。則。夫。婦。ノ。血脉。ニ。本。申請。タ。リ。寬。永。ノ。末
ノ事也。

四人ヲ誑僧。忽チ報シ受。事付。火炙リノ報ノ事
寬永十八年十月。本秀長老三列ヨリ。濃列池田ノ近所中ノ

卿ト云處へ行給彼所ニ心秀ト云僧十二三年備參シテ後別
籠居タリ。彼文秀大作ナドニ利錢賣買ノ事ヲ成世ヲ渡也
去程ニ庄屋ノ女ノ爲ニ女難ヲ受タリ。是ヲ知タル者一人アリ。
此者ノ方ヘ女ノ方ヨリ金子二兩亦坊主ノ方ヨリ。金子二兩出
シテ。是ヲ能々陰シテクシヨト頼也。彼者尤ト云テ金子ヲ取頼
テ人ニ語ナリ。此時文秀腹ヲ立人形ヲ作ブレクニ刀ヲ作サレ
テ。彼者ヲ強誑程ニ頼テ白ヒ殺也。然ルニ彼文秀七日モ過ガレ
ニ在氣シテ。赤裸ニ成テ。カケ回ル。鳥獸ノ如シ。少モ立留シハ
地ヨリ劍出テ。足ヲツラヌクト云テ走也。取付草木モ皆劍也。ア
ラソロロト云テ。雅アリク。二日三夜也。所ノ代官是ヲ聞
テ。捨置テモイカト云テ。追回シタキ伏テトラヘ馬ニ乘テ。中
工來馬ノ上ニテモ劍ニ連接ルトテ悲ム也。籠ヲ捲入テ。所ノ者

ニ番ヲサセ置タルヲ見タリト。本秀慙ニ語り給フ。劍樹刀山ト云
テ明カナル也。○江列佐和山ニテ去人下女ヲ炬火ヲ以炙殺
テリ。然ニ彼人火ノ病ヲ受テ。総身燦也。早く水ヲクシヨト云間
イソキ水ヲ持來レバ。是更ニ水ニテナレト云テ。吞テ不叶。龍有ハ
トテ大半切ニ水ヲ入。篠ノ葉ナドニテ。露ヲ掛テ見ケル。滴リ
身ニ落ル。其モ火也。ヤレアツヤ堪。難ヤ。イカニモ皆不知。総身火
ニ燦ルトテ。悲余ホトニ祈念ニ名ヲ得タル真言坊主ヲ頼。大法秘
法ヲ行様々加持シケレ。水呑テ不能。只水々ト云斗ニテ七日
不燒死ケリ。慙ニ知人語也。寛永十七年ノ也
五妬深女死ノ男ヲ取殺ス。付女死ノ地ト爲男ヲ卷事
越後國大沼郡ノ代官吉田作兵衛ト云者。信濃善光寺ノ
者ニテ。妻子ヲ善光寺ニ置ケリ。或時妻召使シ下

又。是ハ作兵衛内通ニテ走セ。大沼エ呼寄置由本妻後ニ聞
付大ニ腹立大沼へ行此恨申ヘド。狂走出ケル。近所ノ者共
者テ押ケレバ力無止リ。朝夕是ヲ恨ケルガ身心日々ニ衰ヘ重
病ト成。今ヲ限ノ時作兵衛手代武兵衛ト云者。幼少ヨリ。作
兵衛夫婦ニ養育セラレケル故。件ノ様子ヲ聞テ驚キ。早速
ニ参。御氣色如何ト問。妻女答云。自カ煩別ノ子細ニアラス。作
兵衛ニ加様々々ノ恨有ニ付テ。今斯時ト成タルト語。武兵
衛切々。是非ノキ御事カナ。思召ラカル、一ナキヤト申ケレ。妻
女云。願ハ大沼ノ手掛ヲ殺ノ首ヲ持來。自ラ存命ノ内ニ。一目
見セテ給ヘカ。カ。花ナクシハ相果後世ノ障也ト。打嘆テ深ク頼
ケル故。了簡ニ及ズ。大沼エ行作兵衛留守ニ彼手掛ヲ賺出テ。
指殺首ヲ執テ。善光寺へ参。角ト申ケレバ。女房可波ト起上

リ。居長高二成テ。大ニ悦ビ。ニツコト咲テ。叔々嬉ヤ有難ヤ。我
等頃如何斗カ。嗔恚ヲ熨遣瀬ナク。苦ニ沉シ。ニ其方ノ影ニテ。
今コソ妄執解テ。心晴ヤカニ成タリト云テ。手合セ拜シ。彼首ヲ
引寄。氣色替其儘。喰付髮ノ毛ヲ拽カナクル有サ。中々怖布
射也。武兵衛是ヲ見。夫ハ餘ニ浅シキ。御事也ト云テ。首ヲ牽
取捨テ宿願へ皈ヌ。其後女房氣色次第ニ衰ヘ終ニ死ス。然ル
其妄念形ヲ顯メ。大沼へ行ト云テ。馬ニ乗。作兵衛門ニテ乗掛
テ行ケレバ。下人一日見肝ヲ消善光寺ノ上様御越ナサレタル
早驚ケレバ。其マ。消失也。其時馬ニ乗タル者。其後右ノ通快
三語。扱作兵衛伏セリ。死ス。彼女房來テ首ヲレム。作兵衛驚
起上ケレバ。其儘消テナレ。度々首ヲレメ。死ニ依テ。様々ニ吊ヒ
柳ケレ。片叶ス。晝夜俱ニ家ニ居テ。人ノ目ニモ見ユル也。作兵衛

畏恐テ。此彼ニ宿ヲ替ケルニ。結句作兵衛ヨリ先ニ行テ。頭
居也。何トモセン方ナク。作兵衛煩付終ニ死去スル也。其子今
越前ニアリ。越後ニテ陰ナキコト也。○寛永年中。大原ニ如應
云道心者アリ。彼發心ノ所謂ヲ聞ニ。大エニテ京ニ居ケル時。
女房果テ後本ノ女房ノ姪ヲ妻ト爲ケリ。或時晝寢ニテ居
テ。空ヨリ蛇サカリ。舌ヲ出シテアリ。是ヲ取捨ケレハ。亦來
後。頸ニ卷付テ離ス。爲方無ノ發心シ。髮ヲ剃。鉢シケレ。蛇
更ニ去ス。後ニ高野山ヘ登。則ニ不動坂ニテ蛇失ケリ。悦三年
居テ下ル。本ノ坂ニテ蛇又頸ニ卷付タリ。人々怖ヲ作。故ニ
手搜ヲ卷テ居ケリ。數年經テ後。上京相國寺ノ門前。報土
寺權譽上人ヲ拜シ。一々懺悔ノ十念ヲ授テ。久シク念佛シ
ケレ。ハイット無蛇失タリト也。○大坂陳ノ二三年以前。駿河

府中トシ。レイ町。狹崎ノ近所。原田次郎。左衛門宿。四五間
近所ノ者。信列ヘ行テ。女房ヲ來テ居ケルガ。暫在テ。駿河
ニ散ケリ。信列ノ女房來。其有様怖シ。駿河ノ女房是ヲ見
逃行夫トニ角ト云。夫彼女ヲ賺。三保ノ松原ヘ伴テ行。舟遊
ノ海エ入テ殺ケリ。頓蛇ト爲テ。腰ヲ卷。何程切テモ亦卷
ニ依テ爲方無ノ高野ヘ行テ居タルト也。
六姨深女死ノ後ノ女房ヲ取殺事。付下女ヲ取殺事。
江戸浅草海雲寺ニ。全春ト云僧アリ。七歳ノ時母ニ離。頓
繼母アリ。彼繼母紙帳ノ中ニ卧ケルヲ。亡母來テ髮ヲ取。紙
帳ノ外ヘ引出ス。繼母起上。暫組合ケレハ。亡母ハ失ケリ。其後
繼母煩フニ。枕本ニ亡母來テ。頸ヲレメ。終ニ取殺タリ。其後モ
親類中ノ家ニ來ト云リ。慶安五年ノ比。此僧廿一歳ニテ。百

ニ語ヲ牛込天徳院ニテ聞也。○奥列ニテ去女人ノ死ケル
ヲ沐浴ノ棺ニ入テ置ケル。棺ノ中ヨリテ手ヲ出ケリ。人々
肝ヲ消麩ニ内ノ下女ワツト云聲アリ。見バ頸ヲ引抜テア
各ニナシ。不審ノ棺ヲ披テ見バ死人。彼ノ女ノ頸ヲ抱食
付テ居タリ。是日比妬シ念カノ作麩也。愚道和尚若時見タ
ルト語至フ也。○江戸糶町ニ有者ノ女房煩死スル時男ニアノ
下女ヲ女房ニテ置ナラハ崇ベシト云テ用ス終ニ女房ニシ
ケル麩ニ死タル女房來テ下女ノ髪ラムシル。下女悲ヲ聞テ
人々倚テ見ニ何モナシ。人ノ途ナレバ來テ髪ラムシル。後二六
筋モ残サスシリ抜テ終ニ取殺悵ニ見タル人多寛永十四年
イ也

七下女死本妻ヲ取殺事 付 主人ノ子取殺事

或宰人何某ト云者。羨濃ノ國ヨリ尾列名護屋へ行テ。日
暮ニ般在麩ノ近所ニクリ舟アリ。其所ニテ彼宰人ヲ呼フ
頻也。驚テ名護屋ノ方ヘ立般シレケル。若以後臆病者ト云
ワレテハト思彼聲ニ付テ。名ク行テ見バ。倒立シタル人アリ。怖
布思ヘ。何者ソト詞ヲカクレバ。御般ヲ待居タリ。我ハ庄屋内
御存知ノ女ニテ有不慮ノ仕合ニ依テ。非分ノ死ヲ仕ル敵ヲ
取ニ參度存ル間此舟ヲ越テ給ヘカレト云。是ハ僻者哉。若イ
ヤト云ハ崇ヤセント思安事也トテ。舟ヲ倚レハ倒立ナカラ乘
亦倒ニ下タリ。見捨テ宿ヘ般麩ニ暫アツテ。窓ニ來テ云。是
テ參ケレ。庄屋ノ口々ニ札多有テ。内エ入リ叶ストテモノコト
ニ札共ヲ剥取給ヘト云。是猶イヤナリト思ヘ。加ヤウク者ニ
崇ラレテハト思易事トテ。札ヲ取ケレバ。庄屋内ニハ女共木

綿車ヒキテ。六七人居ケル。家主ノ女房ワツト云テ。死入テ
リ。女共肝消アワテ。躁テ。彼宰人ノ家ニ至テ。早々御越候
テ。給ト云フ。何事ソト云テ。起ヤスラフテ居ケルニ。三度ミダ
呼ニ來。故行テ見バ。彼家ノ女房。早暎モ斷テ死ケリ。扱ハ
女ノ敵。是ソト思。焚止千万也。然レ石カラ無ト云テ。敵。則ニ彼
冥女真様ニ成テ云。敵ヲ取テ。社真様ニ成タリ。備ニ御恩有
難トテ。拜隨分御身ヲ守。御恩ヲ報スベシト云テ。失ケリ。扱
不審ニ思。其故ヲ聞ニ。此女。庄屋目懸ナリ。女房。此女ヲ悪シ
夫有馬工湯治レケル。留守ニ内ノ下男ニ頼河ノ向ニ。夜キ井
アリ。彼女ヲタルステ。井ノ端へ遊ニ出。是ハ何井土ゾト。ノゾク。彼
下女モノゾク。剋テ。倒ニツキ入テ。殺ケリ。其夜ヨリ。彼。縷舟ノ
渡ニ化アリト云ケリ。人々逃テ。慥ニ見タル者ナレ。彼宰人後

ノ取沙汰ヲ。思心ヲ定テ。見届ケリ。彼庄屋有馬ニ居ケル
故人ヲ遣セバ。庄屋方へハ。彼冥疾告テ。知セケル間心得テ
驚タリ。ナレ。女房已カ心ノ科也トテ。三七日湯治ノ。敵ケリ。
寛永卅年八月ノ。也。彼ノ宰人ノ口ヲ聞人。慥ニ語也。○
駿河國何某内方人。使悪ノ下女一人。頸ヲ括ケリ。夫此ヲ
見。教訓シケレバ。女房。殊腹立。竹ヲ以首ク。リタル。女ヲ敵ケ
レ。死人ノ口ヨリ。蛇出飛掛リ。女房ノ頸ニ。ニキ付。即時ニ。レメ
殺ケリ。其人ヲ陰ノ言ス。友野文右衛門。慥ニ知テ語也。○江
戸。或侍大坂落城ノ時。女落人ヲ取。甲州ノ知行ニ置ケルヲ
彼仁駿河番ノ跡ニテ。内方彼女ヲ呼奇テ。拵鑑セリ。或時十
二三成。息女死ス。筭ヲ置セケレバ。彼ノ女ノ祟リナリト云フ
夫ヨリ。息女ノ守ヲ始テ。昔々彼女ヲ拵鑑スルノ限ナレ。女

堪兼ニ身ヲ認メ。茶磨ノ頭ニ結付深キ井ニ入テ死ス。驚
テ取出ス。死骸ヲ尺四五寸ノ尾切蛇出タリ。是ヲ殺シ身
ノ中ヨリ。同様ナル蛇八筋出タリ。殺セ居クハ少蛇盡ス。頓録
端エ上レキ井ニ頭ヲ持セテ。彼女房ノ方ヲ見付守逼テ居
也。真言坊主道切シケレバ。蛇失テ来ス。然レドモ子息數多取
殺也。寛永十五年ノイ也。

八愛執深女人忽蛇躰ト成事 付夫婦蛇ノ事

備中國松山ノ近所竹ノ庄ト云村ノ庄屋ノ女房山伏ヲ陰
男ニ持山伏死ノ後幽霊ト成彼女ト出合テ數年也。夫怪ミ
終ニ見出女房ヲ耻メケレバ其儘氣違テ怖布在ケルヲ籠
舎サセ置ニ次第ニ形替髮筋針金ノ如ニ成眼光口ハ耳ニテ
切即チ角出テ。蛇ト成其所ニ大ナル池アルニ此池ニ入ベシ

一鐘大鼓ニテ。親送ベシ。尤無ハ此狎ヲ殘サズ取殺池ト爲ベシ。

好ノ如ク六礙ヘカラスト云所ノ者共畏怖テ池ニ送ベシト談

合究テ。正保二年酉ノ六月廿八日ニ送ケル由備中笠置東

雲寺ノ江湖ニ在シ僧休和山大雲寺ノ春南雜談也。海徳寺

ノ住持嶺的六月廿七日ニ東雲寺ヘ來明日廿八日ニ池ニ送

入由ニテ我等アタリノ狎中ノ者共見物ニ行ナリ。同ハ此寺

ノ僧達モ末代ノ物語ニ行テ見給ヘト云ケレバ九里ノ路ナレ

バ行テ不叶ト送ニ語レケルガ果ノ元八日ニ大雨降テ一時

斗躁カリレト也。○勢列菜名ノ町ニ向合ニ十五歳ノ男ノ

子ト十四歳ノ女子ト在ケルニ女子何トナクウロクト煩フ

事アリ。其様体不思議也トテ。委ク聞バ向ナル十五歳ノ男

子ヲ思故也ト云去程ニ向ナル男子ノ親ニ語ケレバ。然ハ我

子ニ此由知セヨトテ。親キ友達ニ問セケレハ。子モ請合ケル
間。逆取テ寢屋ニ入ケル。日高クナルテ起ス。不思議ニ思
戸ヲ明テ見バ。女子男子ノ頭ヨリ。有ニテ吞入テ。女ノ手ニ
テ男ノ肩ヲ押テ。共ニ死シ居タリ。寛永十年ノ一也。或人
語也。○江列大塚村ニ。六右衛門ト云者有常々云ハ。我々夫
婦ハ。タトヒ死テモ。此屋布ニ一所ニ居ベシ。死タリトモ塚ヲ石
一ツニ築ベシト云テ。生テ居中ニ石塔ヲモキラセ。夫婦ノ形ヲ
一ツニ切付テ。我屋布ノ角ニ立置ケルガ。程ナク六右衛門死
ス。女房モ三年ノ中ニ死ケリ。然ニミムレニ。筋此塚ノ上ニ常住
ナリニ成テ。居ケル間村ノ者共殺セドモ。く盡ス。正保年中本
秀和尚其村妙嚴寺ニ住有テ。吊給ヘハ。蛇失也。其石塔妙
嚴寺ノ郊塔ニ堀込給塔ノ頭斗少出テ居也。

九夫死ノ妻ヲ取殺事付頸シレムル事

播列樓並村友洲村善兵衛婦ハ中村ノ源兵衛娘也。善兵衛
子息。元三歳ニ死ス。婦ハ十六歳也。夫死テ後。女ヲ親ノ源
兵衛所ヘ呼返ス。去程ニ夫ノ精魂火ト成。蹴鞠ノ如シ。地涯
一尺程高揚。毎夜來テ。村際ニテ消源兵衛家内躁レクナリ。
娘ノ目ニ見テ。魘物來テ。髮ヲ挽テ折々也。娘ノ母ニ向テ。
ヲソロシキ物來ト云テ。恐レ伏終ニ髮ノ毛ヲ皆抜盡シ。卅
日力中ニ取殺タリ。寛永十年ノ一也。○江戸鷹師町ニ。一
有侍不圖煩付死ニ窮時。妻ニ向テ我死ス。不請ナガラ髮
ヲ剃。善提ヲ吊テ給カレト云。女房尤也ト請合ハ。頓死ナリ。
然ニ女房髮ヲ剃ス。剃ベキ志モナシ。故ニ次日夫來テ。目見
ケレ。用驚馬ス。猶々來テ。子ヲ見ト見。六日目ニ女房ノ頓死ナリ。

ケル間クツト云テ。目ヲ舞死入ケリ。女房ノ兄カヲ被テ。切拂比與者侍ニ似合テ。耻シメケレ。用ス苦メケル程ニ。女房次第ノ弱ナリ。女房ノ弟心得タリトテ。鉶ヲ取出。姉ノ髮ヲスキト。挾捨ケレバ。則本徳ス。後ニテ髮ヲ剃テ居也。其朋輩衆ノ内方委ク知テ。語慶安三年八月ノ也。

十罪無シテ殺サル者。惡灵ト成事

江列蒲生郡市子村ニ安部清左衛門ト云者ノ祖父下人ヲ無理ニ成敗ス。然ニ清左衛門親ノ代ニ此灵出大蛇ニナリテ。予共ヲ取殺然間。清左衛門親子共ニ屋敷ヲ捨込テ。別屋敷ニ越然ニ彼灵隣ナルイトコノ弥左衛門親ノ更工入子ヲ取殺種々ニ惡事ヲナス。此親迷惑シ京工上内裏様工種々祈詔仕リ。神ニ祝其灵ノ屋敷ニ宮ヲ立時々ニ糸ヲナレ。灯明ヲ

立敬ハ。彼ノ灵弥腹ヲ立我ニ鈴ノ音ヲ聞スル故ニ。弥苦ニ増也ト云テ。人ニタヨリ。殊ノ外シヤベリ。弥左衛門内ニモ祟リヲナレ。大キナル蛇ノ形ヲ現シテ。弥左衛門子共ヲ多ク取殺也。或年ノ正月六日大雪降ニ長三間斗ナル蛇身内三處。三ツウミ出ケルヲ。弥左衛門親亦殺シ。山ノ雪ノ中ニ捨ケレバ。亦ハ次ノ日來テ。右ノ躰ニテ居タリ。其三月姑背ニ腫物出來。三處ヨリウミタリクサリテ死ス。是ニ付テ迷惑シ。十四日ニ本秀和尚工吊ヲ頼來。本秀和尚次日十五日ニ彼處ニ至先官ヲ打崩木ヲ切塔婆ヲ立。血脉ヲ収七日吊ヒ給エバ。ヒト収リ。其後終出ス。彼弥左衛門夫婦子共少モ食ヲ喰事ナラス。大豆ト豆膏ト食シケルカ。其灵収テヨリ。皆食ヲ喰子共息災ニ成ナリ。正保三年雪月ノ事也。休心悽ニ

語也。○一柳何某。人ノ譚ニ仍テ。科ナキ代官ヲ手討ニス。機
嫌惡布時分。五歳ニ爲テ。具ヨリ出ルヲ抱テ。愛シケルガ。此
子親ト在ナカラ。縁ヨリ落テ死ス。爲方無棄物ニ入テ。寺へ
遣佛ノ前ニ置侍ヒ一人付置ニ。佛殿ノ上ニトクシク鳴ル。令
驚キ急度見廻ニ。番ノ侍無念也ト云テ。其儘殺入ス。皆々
走倚藥ヲ與呼返シケリ。三日過テ云様ハ。日モ早暮方ニ
成弥御痛布思居廻ニ。俄ニ天井崩カ如ニ鳴テ。光物來亦乘
物ヨリ光物出テ行ヲ切留トスルニ叶ス。其時無念ナリト云ト。夢
ノ如ニ覺タリト語終ニ。氣色惡布シテ。三日過テ死ス。扱其光
物ノ時分。主ノ前ニ彼成賊ニ逢タル者。右ノ子ヲ抱キ。我此御
子ヲ請取テ。羨シク御成候ト云テ。夫婦來ケレバ。主人見テ
憎ヤツカナト云テ。脇指柄ニ手ヲ掛縁ニテ出給エハ。身直氣

ヲ失玉。小性共抱起シ。藥ヲ參ケレバ。漸々氣付タリ。是ハ
醫者也。兄道流ト云人。右近殿エ語ヲ聞人。慥ニ語也。
○武州瀧山某代官ノ時。火事出來ス。下代某下女ヲ捉是
ヲ科人ト爲村中ヲ引廻テ。後火炙ニス。餘口ヲキクト云テ。
口ヲ破テ物ヲ言ズ。然ニ火ノ中ヨリ。大ナル黒蛇火ノ上ニ四
尺程高頭ヲ上テ見ケルガ。頓家中中エ來先下代ヲ妻子共
ニ取殺次ニ家老ヲモ先子共ヲ取殺シテ。後夫婦殘無取殺
扱主人ヲ癩病ヲ受久ク乞食シテ死セリ。慶長十年ノ比也。
○濃洲池田村ニ次允衛門ト云庄屋有地頭。少ノ愚外有
シ故。野ト共ニ籠舎セリ。次允衛門籠ノ中ニテ。野ヲ小刀ニテ
指殺シ。其死骸ノ上ニ乘リ言ケルワ。去トテワ非義ノ曲事ニ
逢テ。死ス事無念也。此遺恨ニワ年忌々々村中ヲ焼拂ハシ

地頭一家ヲバ取殺ベシト憤テ自害シケリ其如地頭子共三人ヲ取殺シ其身盲目ト爲老男勤衛門子共俱ニ取殺シ年忌毎ニ村中エ火ヲ付焼拂百姓餘ニ迷惑シテ地頭工前詔ヲ申寺ヲ建高七石寺領ヲ付名古屋ヨリ周香ト云僧ヲ呼住持ニ居次充衛門位牌ヲ立吊セケレバ火事収リ村中無事ニ爲也周香ワ本秀和尚ノ弟子也

十一女生灵夫ニ怨ヲ作事

細川殿國替ノ時高橋甚太夫ト云弓ノ足輕女房ヲ伴テ豊前ヨリ肥後ノ國工行一兩年過テ女房ヲ去ベキト云女房聞テ其儀ナラバ小倉工送り給ト云尤也トテ一日路伴行途中ニ捨男ハ夜逃ニシテ故女房悲テ亭主見憐其所ニテ似合ノ男ニ仕付タリ其後甚太夫別ノ女房ヲ呼ケレバ前ノ女房

來テ首ヲシメ痛ケル故女房置事叶ズ終ニ昔ノ女房ノ颯エ行テ様々僂言シケレバ我今思様ナル家ニ在付事其方手間ヲクシタル故能仕合ト成間更ニ違恨ナレト云悦ビ故テ女房ヲ呼バ本ノ女房ノ頭容ヨリ入テ棟ニ乘テ首ヲシメケル故ニ女房ヲ持事叶ズ終ニ獨居也甚太夫自語ヲ聞タル僧來テ語也寛永年中ノ事也○九左衛門ト云宰人統後ノ國ニ女房ヲ置三年待給エ若三年過バ何方モ有付ヘシト云テ肥後國工來身上有付兼爲方無醫者ニ成玄清ト名ヲ付テ別ノ女房ヲ求ケリ有特古卿ノ女房ノ事ヲ思出シ何トカ有ン此方ニテ女房持タルト聞バ定テ恨ベシト思ヒ折節夏ノ事ナルニ竹達子ニ足ヲ踏上テ表ヲ見バ古卿ノ女房來テ立居タリ玄清思様是ハ我思出タル心ナルベシト起テ見バ何モノナレ亦

ハ狐狸ノ態ナルベキカト思勝指ヲ取テ持ケル處ニ本ノ女房
ツルくと来ト見テ。抜打止切ケレバ窓竹ヲ切拵彼女房玄清カ
足ノ大指ニ喰付テ。牙跡ニツマリ。今女房内ヨリ。大刀音ヲ聞テ。
走出何事ゾト問バ。玄清タワヌミテ切タリト云。切ニツノ疵何ト
療治スレドモ愈ス三年苦痛シテ。終ニ死ケリ。玄清ヲ引廻シタル。
平野角太夫語也。肥後守身体果テ後ノ事也。○江州多賀
ノ町ノ去女人物洗次不動院ノ小性ヲ見。戯言ヲ云。小性耻ク思
越去コト度々ナリ。或時彼女小性ヲ見追ケレバ。小性逃行ニ屋
敷迄追付髮ヲ切。仰籠近着迄切テ行是ヲ見寺ヨリ女房ノ
夫ノ方エ使ヲ立テ。取タル科々ヲ云テ。遣スニ彼女ハ。頓伏テ居
タ。男女房ニ尋ケレバ。夢ノ如ク覺タリ。仰籠ハ雪隠ノ垣ニ
掛髪八部屋ノ棚ニ置ト覺タリト云。即尋見ハ皆有彼女房

頓死スト也

十二塚燒事 付塚ヨリ火出ル事

東三河ノ宮ノ近所上野村兵右衛五郎ト云。鍛冶ノ女房死
テ。七日目ヨリ塚ニ天目程ナル穴出来テ。鍛冶ノホドノ火ノ如ク
燒ケリ。七月盃適ニ我所ノ全ヤ行テ見ニ火強出ル間若竹ヲ
持入テ置ニ。子くと燒テ。燃來ナリ。引導師ワ。長山ノ正眼院
也。後ニ牛雪和尚洽給也。兵右衛五郎モ。三年忌ニ死シケリ。寛
永五年ノ事也。○大坂ノ北野江村ト云。仁兵衛ト云者。寛永
十一年七月廿三日ニ。五十二歳ニテ死ス。一向宗也。伊が塚ヨ
リ。蹴鞠ノ如ナル穴ノ九カシ出。二三度上。其後細路有テ。二三尺
程高ツルくと上我宿ノ方へ來路次ノ田畠ヲ。残サズ廻テ。田畠
ノ上ニテハ。大キニ爲テ。細々ト散テ落ケリ。其落有謙ワ。血ノ如

本ノ火ニ爲テ八田島ヲ廻窮テ我家ノ棟ヲコロクト。コ
ロテ亦塚工返テ日半毎夜四時ニ來也野江中ノ者皆々見
タリ庄屋作兵衛子共兄弟共ニ見ナリ。兄ハ十七八ナルガ是
ヲ見四五日煩也。○江州ミノウラト云魁ニ本願寺門徒死ス。伊
加塚ヨリ火ノ丸鞠ノ程ニ爲飛出ル事夜々也。或夜人数多
居タル處工飛來是ヲ取ト追廻共取留ラズ又餘ノ家ニ飛
入ケレバ家ノ中焼如也家主モ妻子ヲ伴テ。二三町遠キ寺
ニ逃行也。且那坊主用スレテ。是ヲ吊事ナレ。後ニハ親類中
ノ家工飛行也宗菴懺ニ見テ語也

十三生ナカラ地獄ニ落事付精魂地獄ニ入事

肥前國温泉山へ同行三人參詣ス。一人ハ豊後ノ町人一人ハ
出家肥前ノ人一人ハ率人彼出家ノ寺ニ宿ヲ借テ居タリ。

彼坊主地獄漏出ル所工指ヲ少指入テ。并ノニ契ナレト云テ。
指ヲ引出シケレハ彼指契シテ叶ズ。又指ヲ入ケレハ契止。今
ハ快トテ指ヲ引ケレハ弥契増テ。堪兼又指ヲ入。兎角引
出サレズ。次第くニ深入テ腕皆入。又引テ見バ弥契シテ
堪ズ。後ニハ捻身皆入テ。頭斗出シ。一段ト心好去ナカラ。下へ
拽コトヨシト云テ。後ニハ目ヲ見出テ。中々怖敷ト悲事限
ナレ。二人ノ同行アキレテ。泣々下向シタリト語ラ。懺ニ聞也。
寛末年中ノ事也。○下野國那須ノ湯涯三町隔テ地獄有
那須ノ教傳ト云者。山工薪ヲ取ニ行ケルガ。朝食遅シテ。伴
ニカトルトテ。母ヲ踏倒ス。扱山工行ニ地獄ノ涯ヲ通時俄ニ
大地獄出來テ。教傳其儘落入。友達走倚テ。頭ヲ取共留ラ
ズ。終ニニ入ケリ。今ニ至テ教傳地獄ト云傳テ有教傳申

斐ナレト云ハ俄ニ漏出也。○三州牛窪村ニ市兵衛ト云鑄
物師石巻山ノ鐘ヲ盗ケリ。寛永ノ始比白山上參詣ス。山
八分目ニテ。彼市兵衛俄ニ立直回ヨリ焔焼揚タリ。同行
見彼者死セバ。穢有ト云テ。急山工登下向ニ見ハ体ハ其儘
有テ。アタリヨリ焔出ケリ。皆肝ヲ消下。又次年東三川ヨリ。
白山上參詣スル者アリ。見ニ彼市兵衛。去年ノ如シテ有下
向ニ見ハ。早消テナシ。今ニ其所ヨリ焔立也。其涯ニ五六尺ノ
石有。其石熱シテ手付ラレズ。道雲寺ノ守的野田ノ意庵悵
ニ見タリト語也。○尾州山崎ヨリ。寛永十六年ノ夏同行十
人立山工參詣ス室ト云。魎ニテ同村ノ理衛門又六ト云。二
人ノ者ニ逢タリ。何セ來タゾト問ハ用有テ來タリト云。不審
ニ思所ニ急テ登開在處ニハ何事モ無カト問ハ何事モナシ

ト云捨テ行也。弥心元ナク思ナガラ。下向シテ見ハ彼二人
何事モナシ。同行皆陰シテ居ケルニ。其霜月二人共ニ熱病
ヲ煩ヒ。一兩日充隔テ死ケリ。其時立山ニテ。逢タル事ヲ
委語也。南野村休庵物語也。正保四年ニ聞也。

十四弟ノ幽冥兄ニ怨ヲ成ス事付兄婦ニ付事

三州荻屋ニテ。常木何基ト云人ノ弟。不覺悟人トニ依テ。
兄殺テ陰ケリ。一周忌過テヨリ。彼弟血刀ヲ振來リ。兄ニ向
テ雜言ス。兄刀ヲ抜テ。追拂クシケルガ。積虫ノ持病ト成テ。
次第クニ。氣力盡テ。爲方ナク。本光寺善徹和尚ヲ頼吊テ
ヨリ。舟來ラサル也。正保三年五月ノ事也。○大坂城中ニ松
衛門ト云者有。落城ノ後紀州有田ノ内ガブラ坂畑村ト云
所ニ市右衛門ト云兄有。此魎工來テ住ケルガ。程ナク頃付。

已ニ死期ニ及時我死セバ金柄ノ小刀ト六道錢上錢六文龕
ノ内入ヨ。別ニ言事ナレトテ死ス。然ニ女房市衛門ニ云テ
小刀ヲモ入ズ。惡錢六文入タリ。未七日モ過サルニ松衛門來
女房ノ目ニ見タリ。女房驚ク事限ナレ。女房ノ弟此由ヲ聞
不審ナリトテ。馬ニ騎テ來ラ。彼松衛門路ニテ。道ニジト云
テ取テ極ケレバ。忽チ殺入シタルヲ。往來ノ人見テ。引起シ是
ハ何事ゾト問ハ。松衛門ニ抛ラレタリト云。其後松衛門來テ
女房ヲ引立行。女房肝ヲ消呼悲ヲ。市衛門抱留ケレ共用
ズ引立行ホトニ。女房柱ニ懷キ添ケレバ。柱ノ石口三寸ホト上
也。此由慶瑞和尚ノ弟子。圓滿寺ニ語ケレバ。子細ヲ聞。是ハ
遺言ノ如セザリシ故ナリトテ。即彼小刀ト上錢六文ト伊ガ
墓工埋セケレバ。其ヨリ再ビ來ラサル也。○江州大塚ニ白山

ノ山伏還俗メ善左衛門ト云ケリ。兄ノ子ヲ養子ニテ寬永
九年ノ比死去セリ。兄ハ江戸ニ奉公シテ居ケルガ。是モ故テ
程ナク死ス。養子家ヲ續ナガラ。善左衛門ヲ吊コトナク。無
道心ナリケルガ。イツトナク。瘦衰病者トナツテ。用ニ立ス去程
ニ。正保二年霜月七日ニ。善左衛門兄婦俄ニ口走テ云ケルハ。
我ユツリケル家賊農具。ニナク返ヘシ。養子瘦コトモ我ヲ吊ハ
サル故ニ。餓鬼ノ業ヲ授ルナリ。鐵鍬小桶衣類紙子。何々ト。一
二三數立テ。返セクト責ナリ。是ニ驚キ本秀和尚ヲ頼吊
也。然ニ寺ニテ。日中ノ經ヲ誦時。分口走テ云ケルハ。茶ノ子ヲ
拵テ寺工行ベシ。我モ跡ヨリ寺工行也ト云夫ヨリ治テ。病者
本復スル也

十五先祖吊ワザルニ因子ニ生來責事付孫ヲ喰事

尾州名古屋長者町二次郎八ト云者一人ノ子ヲ持六歳ニテ
腰立ズ祖父ノ次郎ハラ見知タル本秀和尚見給テ是子ハ
悽祖父ナルベシ。笑顔成振常ニ手枕シテ在シ僻セニテ殘廢モ
無能似タリ。如何様因果ナルベシト云ハレテ次郎ハ云皆人モ
左様ニ申セシカ思當一有我父ノ佛事ヲモ能吊ハストテ元
ハ一向宗ナレドモ即禪宗ニ成タリ。其母今ニ存命ニテ此子
ヲ預置ニ六歳ニテ物言ヲ契ズ親ト親ヲモ見知ス目ハウル
クトメ。酒ニ酔タル者ノ如シ父ノ次郎ハ酒ニ酔テ死シケリ。
先祖ヲ吊ハガレバ子ト爲テ責ト古今云習ル一是也。越
後衆ニ何某ト云者有関方原陣ニテ討死ス其比カ夕子有
成人シテ九左衛門ト云カ二三歳ニテ女房ヲ求男子二人
ヲ産一人腰拔也引立六足ハ有骨ハナレ九左衛門是ヲ悲

三。此子ヲ既ケ六夢ニ告テ云吾ハ汝カ父也終ニ吊一無故
脩羅ノ苦患悲シサノ儘汝カ子ニ成タリト。夢醒テ母ニ問ハ
尤夢ノ告ノ如也ト云ヘリ。○與刑會津ニ何ノ九郎左衛門
ト云牢人有細エナドシテ世ヲ渡ケリ本國ハ上方也此人六
歳ノ時父ニ後レ母ノ養育ニヨツテ成人ス越後ニテ女房ヲ
求會津ニ來リ子一人持タリ此子通神ニ逢タリト腰立
ス十三ニテ死タリ。夫婦愁歎限無七日ノ吊ニ宵ヨリ。僧ヲ
供養スルニ其夜ノ夢ニ子告テ我ハ汝カ父也我死テ後終
ニ供養スル無故ニ汝カ子ニ生來十二年ノ養育ヲ受タリ。
明日ハ廿七年ニ相當レリト。悽ニ云テ夢醒タリ。不思議サ
ノ儘年月ヲ算レハ誠ニ廿七年ニ當タル也。○東三川西原村
庄屋勘左衛門ト云者寛永十九年ニ死ス其子不孝ニシテ

長山ノ真源院ヲ頼テ送タル斗ニテ其後ハ吊事無三年目
ノ六月勘左衛門子息ノ内ノ者兩人島ノ拜ヲ刈居タル
處死タル勘左衛門來テ汝等ニ云傳ニトテ來也ト云一
人譜代ノ者ニテ能見知テ祖父様カ何事ニテ候ト問誠ニ
久布テ逢タリ我食物無シテ佛ニ窺ヒ申セハ何ニテモ與ル
物ナシ汝カ子ヲ食セヨト仰有此由ラ云傳ヨト云テ故ヲ見
ハ塚ノ上へ上リ穴ノ中へ入梯ニ足ラ踏込ケリ頼テ五六歳
ノ子死スル也

十六難産ニテ死タル女幽霊ト成事付鬼子ヲ産事
東三川吉田ノ近所関村ト云處ノ庄屋ニ弥次右衛門ト云
者有女房十九歳ノ時難産ニテ死ケルガ頼テ幽霊ニ成テ
迷アルキケリ爲方無シテ親類共妙嚴寺ヲ頼ケレハ牛雪

和尚吊テ治給也○河内國茨田郡ニ小兵衛ト云者有母
如何ニモ正直者也婦ハ飽ニテ心怖布者ニテ時々鬼面ヲ
掛テ母ヲ却ス母此事ヲ聞テ思ノ外ケレ也トテ婦ヲ教訓
シ云必何事モ我ニ報者也還テ其方ノ爲悪カルベト云母
程ナク煩付テ正念ニ往生ス其後婦子ヲ産ケレハ牙八寸
程生タル女子也夫ニ陰ケレ共終ニアラハレタリ正保二年ケ
也那江作衛門語也

十七迷冥來テ礼云事付不吉ヲ告事
播州大坂折屋町ニ長右衛門ト云者有久布煩疲表テ終
ニ死ス一町東具服町ノ三節ト云醫者來々藥ヲ與ケレトモ
子共貪人ナレハ少ノ礼ヲモ云ハズ然ニ其年三節御城ヨリ
出ラル處ニ御門ノ前ニテ彼長右衛門待迎テ云ケルハ三節

様永々御藥下サレケレトモ。子共終ニ御礼ヲモ申サズ誠ニ
御恩忘シ難ト云テ。慎テ礼ス。三節見苦カラズ。再此念ヲ
起テト云テ。二足三足過中ニ形ナシ。寛永十八年ノ事也。三
節直談也。○賀州ニテ。今并何某草履取吉三郎ト云者ヲ
戸田何某所望シテ。小性ニ取上。知行百石出シタルニ依恒々
云ケル。我等先祖賤者ナルニ御取立成レ。殊ニ知行迄下サル
ル儀誠ニ以テ忝ナレ。此恩ニハ何時ニテモ。後世ノ御供仕ル
可ト云。三年過テ。戸田何某死去ス。吉三郎兼テヨリ。云ケル
事ナレバ。御供セント云。今并某聞テ。尤也トテ。次日寺へ同道
シテ。執持カイヒヤクシテ。截腹サセケリ。今并宅ニ皈レバ。吉三
郎頭テ來テ。今日ハ御執持忝シト云。今并何ノ礼カ有ヘキ。
再來ヘカラスト云トモ。五六度來問タ。不敏成トテ。流灌頂シテ

能吊ケレバ來ラザル也。○幡州立野領廣山ト云處ニ六郎兵
衛ト云者死テ後。幽霊トナツテ。未蔭村源大夫ト云者ニ逢
テ物語シケリ。我子頃死スベシ。先馬死テ後。火事出來。其後
子死ベシ。是ヲ歎ニ依テ。其方ニ對面ス。此由語給ト云ケルガ。
其如死果ケリ。寛永十二年ノ事也。彼源太夫。近藤五郎左
衛門ニ慥ニ語也。

十八幽霊來藏守事 付 亡父子ニ告テ山ヲ返事

尾州名古屋バ下榎木町ニテ。去者病中ニ藏ヲ作ケルガ。明
暮藏ノ方斗詠入テ居タリ。頗重ルニ隨テ。弥藏ヲ見タレト云
ニ依テ。半切ニ入テ昇出藏入又回シモ。二三度昇行テ見セ
レ也。其如七日程シテ死シケリ。頃テ幽霊ト成藏ノ方斗詠云テ。
カナギリタル聲ニテ呼リ。夜々ニ藏ノ脇ニ居タルト也。○江州

東上坂村左近在門ト云者緊布煩俄ニ口起テ我ハ父ノ左
近也他人ト山ノ境ヲ立時人ノ山ヲ三間程取タリ其科ニ
依テ苦ヲ受テ限ナレ願ハ此境ヲ返シ給ト云夫ハ上テ返ケレ
ハ相手ノ者今ハ互ニ子ノ代ナリ昔レ定タル處ヲ今取返テ
ハ此方ノ科ニ爲モヤセント云テ請取ス故ニ此病人次第ニ
悪爲タリ

十九善根ニ回テ富貴ノ家ニ生ル事

濃洲土岐ノ郡開元院ト云禪寺ニ佛都ト云座頭有善者
ナル故勸進シテ鎮守堂ト門ヲ建ケル彼佛都死テ後信列
伊那郡ニテ福人ノ家ニ生出タリ彼父ヨリ開元院工使ヲ
以テ御寺ニ佛都ト申セシ座頭有ツルヤ一人ノ子生テ手ヲ
握七日過テ手ヲ開ヲ見バ手ノ中ニ開元院ノ佛都ト云

名有希代不思議ニ候ラハ問ニ遣スト也正保元年ノイ
也○肥後國熊本古町ニ長六ト云者居ケリ元來唐人ナリ
シカ肥後工來テ居ス信心深者ニテ白河ト云大河ニ橋ヲ掛
往來ノ通路ヲ安ス故ニ橋ヲモ長六橋ト云町ヲモ長六町ト
云彼者死シテ明年同國ノ庄屋福者ノ子ニ生テ出也則
頸ニ長六ト云文字頸タリ橋ヲ掛ハ加藤清正ノ代也○
加藤清正恒々仰セケルハ菩提處本妙寺ノ上三町程上リ
少平ナル處アリ彼ニ位牌堂ヲ立ヨト遺言シ給故死後ニ
其地ヲ平ケケル處ニ豎横一間三尺程ナル石ノ唐櫃有其
蓋ニ清正坊ト書付内ニハ朱ヲ誥テ有即其朱ニテ冥屋
ヲ塗ト也

二十臨終能人之事

三洲岡崎龍海院ノ門前ニ四郎右衛門ト云者有正直者ナ
シバ道邊ノ人佛四郎右衛門ト云ケリ然ニ寛永六年ノ極
刑俄ニ煩付以外成時我死スル命ハ借カラザレドモ今節
季ツリ悪キ時分也先々死スルイ春ニテ延ヘレ何モ宿エ
飯替節季ノ仕度ニ給ト云ハ煩モ能成人々真レカラスト
思トモ去ハ弥養生シテ明日見回ニ參ベレト云バイヤク
明日モ見舞無用也正月モ死スルニ惡時分ナレバ二月二日
ニ死スベレ朝日ノ晚九二日ノ朝皆來玉ヘ其前ニハ必氣使
スルナト云其如二月朝日ニ少煩付二日ノ晝時分死スト全
鏡長老物語也○武州江戸石町ニ田上玄賀ト云醫者ノ
母六十六ノ歳煩付テヨリ一日ニ三度充行水ヲシ病中ニ
飯依寺五番町松久寺ヨリ祖竜ト云僧ヲ呼髮ヲ剃長老

ヲ請待シテ血脉ヲ戴法名ヲ付殊右ノ如行水シテ六月
十四日申ノ刻ニ必死スベレト言觸テ其日ニナレバ人々ニ
暇乞シテ今日ハ行水七度スベレト云ヲ漸云止テ六度シ了
テ辞世ノ歌ヲ誦皆々エ盃シテ坐禪ノ形躰ニテ即往生ス
○下野ノ國佐野ニ道哲ト云人アリ卯歳八月十五日ヨリ
一食精進シテ万事ニ拘ハラズ一筋ニ菩提ニ思入小座敷ニ
籠居シテ内ヨリ鑰ヲ掛テ人ニモ會ズ工夫純一ニシテ居
ケルカ十一月廿一日ノ朝四比ニ出テ又内エ入終ニ出ス常
々中能咄ケル飯田長右衛門來テ道哲ト呼トモ終ニ返
事ナレ戸ヲ折放シテ見ハ結跏趺坐シテ咲顔ニテ死シ居
タリ○駿州大宮ト云處ニ林齋ト云道心者有六月ヨリ
方々へ行テ八月十二日ニ死スベレト暇乞シケルヲ人々真

ンカフス思^{オモ}魁^{ケイ}ニ八月十一日ニ大宮ノ清正寺^{セイジョウジ}へ行テ明日^{アス}
 必死スル間^{マヒ}龕^{ガン}ヲ持テ王^{オウ}ヘト云易事ナリトテ龕^{ガン}ヲ落^{オチ}與^ユ
 へケレバ十二日己ノ刻ニ自^ミラ龕^{ガン}工入テ人々ニ暇乞^{イダヒ}レテ
 即死^{ソクシ}スト。虚無僧^{コノモ}殘夢^{ゾクガシム}來語也

因果物語中之目錄

- 一 神明利生ノ事 付 御罰ノ事
- 二 佛像ヲ破報ヲ受ル事 付 堂宇塔廟ヲ破報ヲ受事
- 三 起請文ノ罰ノ事
- 四 親不孝ノ者罰ヲ蒙ル事
- 五 二外ヲ用者雷ニ饜ル事 付 地獄ニ落ル事
- 六 食ヲ疎ニシテ家亡ル事
- 七 鳩來御劔ヲ守居事 付 神前ノ刀ニテ化物ヲ切事
- 八 石塔人ニ化事
- 九 鳩ノ愛執ノ事
- 十 母鳥子ノ命ニ替事 付 猿寺ニ來子ノ吊ヲ頼事
- 十一 鷄寺入スル事

士 懸人ノ夢ニ告テ命ヲ乞事 付 牛夢中ニ命ノ祀ヲ云事
 三 馬ノ物言事 付 犬ノ物言事
 四 蛇人ニ遺恨ヲ成事 付 犬猫ノ遺恨ノ事
 五 蝮ニ吞レ換生スル者ノ事
 六 大河ヲ覺ス走ル事
 七 雪石夢物語ノ事
 八 實盛或僧ニ錢甕ヲ告事
 九 産子ノ死シタルニ註ヲ依テ再來ヲ知事
 十 幽霊來テ算用スル事 付 布施配ル事
 十一 亡母來テ娘ニ養性ヲ教ル事 付 夫ノ幽霊女房ニ藥ヲ與事
 十二 亡者錢ヲ取返ス事 付 鉄ヲ返ス事
 十三 幽霊來テ子ヲ産事 付 亡母子ヲ憐ム事

十四 生子田地ヲ沙汰スル事 付 生子親ニ崇ル事
 十五 常ニ惡願ヲ起女人ノ事 付 母子互ニ相憎事
 十六 幽霊ト問答スル僧ノ事 付 幽霊ト組僧ノ事
 十七 獲生ノ僧四十九ノ釘ノ次第ヲ記スル事
 十八 卒塔婆化人ニ食物ヲ與ル事
 十九 夙因ニ依テ經ヲ覺エガル事
 二十 畜生人ノ恩ヲ報スル事
 廿一 犬生僧ト成事
 廿二 殺生ノ報ノ事
 廿三 馬ノ報ノ事
 廿四 乞食ヲ切報ヲ受ル事
 廿五 幽霊刀ヲ借テ人ヲ切事

英 精靈棚ヲ崩サレテ亡者寺ニ來ル事

因果物語中

義雲雲歩 同撰

一 神明利生之事 付 御罰之事

木曾ノ福嶋ニ伊勢ノ御利生ヲ蒙リタル者アリ。委ク所謂
ヲ聞ニ。奥州ヨリ伊勢參ノ者宿ヲ借ル亭主俄ニ信心發
テ思ヤウ。奥州ノ果ヨリサヘ。參宮申人アルニ。我等近國ニ居
テ參サル事無道心也トテ。頓テ參宮ス。故テ程ナク総領ノ
子死ス。人皆伊勢ノ御罰ト云ヒアヘリ。彼者去トテ人信心堅
固ニテ。參宮申也。此子時節タルベト思ヒ。少モ氣ニ不掛次
ノ年參宮スレバ。二番子死ス。人々猶必定御罰也ト云。彼者
何ト有トモ。御罰ヲ得ヘカラス。信心悞也トテ。三年參宮スルニ。
下向ノ廿日程過テ。三番子死ス。三人持タル子皆死ノカラ
ナク居ケル處ニ。一兩日過テ。三人ノ子盜人也。二人ハ死ノ

弟一人アリト。訃人出テ召取ニ來ルニ。一兩日以前ニ死ノ
人モナシトテ。父モ大難ヲ遭シタリト也。寛永年中ノ事也。○
卯ノ三月江戸新石町ニ。或人ノ子守ノ女。伊勢へ又ケテ參
ラ企テタリ。主人イカリ子ヲ捨テ。參事アラシヤトテ。シバ
リケル。然レドモ兎角立タル願アリ。一度ハ參ルベシト云テ。サ
ワク氣色ナシ。去程ニ繩ヲ解ケレバ。頓テ又ケテ參宮ス
ル也。然ニ三日目ニ彼子火ノ夕ニ居タルヲ。兄ヒシトツキ倒
シケルニ。則チ火ニ入テ死ケリ。諸人伊勢ノ御罰ヲ蒙リタ
リト云リト。其近所ノ有閑物語也。○大和國ニ。五百石取ノ
代官衆門ヲ并テ兩人アリ。一人ノ代官衆。或時百姓ヲ成
敗セント云テ。引出ス處ニ門口ニテ。伊勢ノ御師來合是太
神宮へ進ゼラルベシト。シキリニ儲フ間。カラヨバス太神宮へ

奉ルト云テ助置御師。後終ニ成敗ス。然ルニ次日ヨリ。
彼ノ代官食ヲ喰トスルニ。汁ニモ食ニモ皆糞有。物ヲ吞ント
スレハ。茶ニモ水ニモ皆糞有。故終ニ飲喰フ不成。餓死セラレ
タリ。是ニ依テ隣ノ代官ノ子息。是ヲ見恐テ。父ノ家ヲ不
續出家スル也。先年三州石ノ平エ來リ。右ノ様子物語也。後
六律僧ニ成不順坊ト云。又後禪門ニ入テ。江州高野永源
寺ニ住セラレタリト云也。

二佛像ヲ破報ヲ受ル事。付堂宇塔廟ヲ破報ヲ受ル事。
九州肥前國嶋原ニ良可ト云座頭有。彼祖父朝鮮ノ軍ニ。
佛像ノ玉眼ヲ多ク採取也。其報ニヤ孫了可同弟妹三人
ニテ。生ナカラ盲目ニ生ヲ得タリト也。正保年中ニ此座頭
ヲ。慥ニ見タル僧來テ語ル也。○三州足助ニ小三郎ト云者

在。一向宗也。女房懐胎ノ内ニ。觀音堂ノ古道具ヲ取テ。薪
ニシケリ。其子産出程歴テ。次第ニ成人シケルニ。形ハ人ニ違
ハサレ。業ハ犬ノ如シ。座敷ヲ畵廻リ。犬ノ土ヲホル如ニ。ツ
クバイ。火ニ當ル時モ。犬ノ如ニツクバヒ。着物キスレドモ。帶スル
一能ワズ。人ヲ見テハ。走出テ。クワツクト。犬ノ如クニホエ。
糞ヲ食ノカケアリキ。犬ノ如クニ尿尿ス。都テ物云フ叶
ワズ。母是ヲ悲テ。様々ニスレドモ。詮ナク。廿五六歳ニテ。死ケ
リ。人々堂ノ具ヲ焼タル報也ト云アリ。○伯州ニ。江口殿
ト云人。十六代目ニ。高麗陳ニテ討死シ。十七代目ニ。家七
フ。十五代目ノ塚泊ト云所ニ有。元和中。新太郎殿代ニ。
泊ノ代官次郎兵衛ト云者。屋敷ノ上ニ塚有ラ。嫌テ掘崩
シ。土一丈底ニテ。取捨タリ。其儘煩付無言ニ成タリ。一門ヲ

ドロキ是ヲ詮議ノ。定テ掘崩シタル塚ノ主ノ祟リナラント
云テ。所ノ老タル者ニ。此塚ノ主ヲ聞。年老共病者ノ面振ヲ
見テ。此面也。眼指ノ躰。疑ナキ殿様也。然レハ我等如ノ者
ニ。直ニ物御申成レシ。只御菩提廻ノ坊主ヲ頼入レト云
即呼ケレバ。對面成シ。貴僧御越ノ間有増ヲ申ヘシ。此者我
塚ヲ掘崩シ。地ヲ穢。一口惜シ。一門残ズ。取殺ヘト。憤給フ。
終日様々侘言。給ヘ。叶ス。漸一門斗ヲユル。レモフ。次郎兵
衛儀。片時モ延サレトテ。即取殺給フ也。

三起請文ノ罪ノ事

江州カバタ村ハ。松平何某ノ知行也。庄屋寺村庄。右衛門起
請文ヲ書前々ノ物成帳ニツ取。陰レケルガ。須田虫ノ如ノ
瘡出來テ。捻身ヲ喰廻シ。咽フ。正少シ明ケリ。咽フ。正ヲ喰ツメ

ルト。其儘死テ跡絶タリ。彼ノ明屋シキノ唾ニ。長カニ間程
回リニ尺斗ノ大蛇出タリ。人々肝ヲ消見剋ニ。此蛇木ニ
登トテ蛭ヲ落ス。跡ヨリ血ノ出ラ見レバ皆蛭也。カクノコト
ク三十日程見タリ。未ノ年卯月ナカゴロノ一也。ト池内次
左衛門見テ。愷ニ語也。同州信樂木ノ中。枚山村ト山城
ノ内湯舟村ト山界ノ論アリ。代官ヨリ換使ヲ立塚ヲ見
ル。枚山ノ分ニ見立タリ。又前々ヨリノ申分ハ。湯舟村ノ申
介理也。此時枚山村ノ者共兎角起請ニテ申分ベレトテ。一
村残ズ起請文ヲ書テ山ヲ取也。尤白癩黒癩ノ文ヲ書入
タリ。正保三年ノ事ナルニ。漸一年過テ。慶安二年丑ノ春
起請文ノ如村中残ブ癩病ヲ受五六百間ノ村一時ニ荒
果ル也。天罰明也。ト人々云ヘリ。其村ノ様子愷ニ見タル山口

市之義内ノ者語也

四親不孝ノ者罰ヲ蒙ル事

播州天王寺石ノ鳥居ノ前ヨリ。一町半程北西ノ南稜ノ家
主九兵衛ト云者母ヲ蹴ル當座ニ足ナヘテ起ズ。其後母ノ
頭ヲ押ヘケレバ當座ニ手ナエニ成ケリ。手足叶ワヌニ依テ。
母ヲ睨ミケレハ忽眼引ハタカリ。面ノ様子替リ。終ニ癩癩ニ
成手足腐テ相果ル。亥ノ七月十日也。母ヲ蹴ルハ戌ノ年
也。吾モ本秀和尚ト同道ニテ。彼ノ家ヲ見ル也。○同州榎
再ケト云村ニ賤女アリ。一人ノ娘ヲ持此娘ヲ中村ノ者養
子ニシテ。身軀能成ケレハ細々母ヲ踏付ケ己ガ子ニ生テ。無
念也。ト頃一度々ナリ。彼娘子ヲ産トテ死ケルヲ。吊ヒ火葬
スルニ何トシモ焼ス餘見苦トテ。淀河工流ケレバ本ノ處ニ揚

居テ。細々流セ。凡流ス。又本ノ趣ニ有ケル也。○濃州多藝
郡去村ノ者。川向ニ田ヲ依ケリ。其祖父幼少ナル孫ヲ伴テ。
田ヲ行ハ。傍ニ遊テ居ケルカ見ス。扱ハ早ヤ。故タルカト思
ヒ。祖父モ家ニ飯ル。彼孫アトヨリ。飯トテ。河ニテ死ケリ。息
子。腹立父ハ我子ノ敵也。打殺ント云ヲ。人々扱テ宥ケリ。
然レ。凡愚癡深キ故ニ。憤ヲ止ル。不能。鬼角我子ノ敵也。
打殺ノ胸ヲ晴ト云。父聞テ。其ナラバ。晝ハ人目モ悪シ。夜ニ入
テ。我ヲ殺セト云。終ニ近所ノ宮ヘ父ヲ伴ヒ行。待殿ニテ。鋤ヲ
振上。父ノ末向ヲ打トスルニ。打ハツノ柱ニ打込ム。忽チ手スリ。
鋤拔ス。依付タルガ如シ。居ケリ。里人聞付。大勢馳來テ。鋤ヲ
貫ニ拔ス。鋸ニテ。柄ヲ摺切レバ。柄ヲ握タル手離ス。何トモキ
取ントスレ。凡執レス。後ニテ。柄ヲ握テ有レト也。寛永十五年

ノ也。○江州日野ノ町ニ。何某ト云者。在母早ク死。父
獨リ在。或時彼父十死一生ノ痢病ヲヤム也。ヨメ情アル者ニ
テ。能イタワリ。レメシラ洗替。くテ看病ス。父娘ヲ餘所ヘ在付
置ケルカ見舞ノ為ニ來。兄云ヤウ親ノレメシナルニ。責テ一度
洗テ見ヨト。レメシラ指出ケレバ。娘見テ。鼻ヲレカヌ。ツバキヲ吐
掛。アラムサヤト云。然ルニ。彼娘頓テ。鼻ノ下ニ物出來唇上下
共ニ腐リ。ヲトガヒ。テ腐リ落テ。終ニ死ケリ。本秀和尚能
知テ語給フ也。
五二外ヲ用者。雷ニ獲ル事。付地獄ニ落ル事。
江州松原ト云。剋ニ後家アリ。表家ヲ人ニ借テ。奥ニ居タリ。
寛永九年ノ六月。表ノ庭ニ雷落テ。表屋ノ中ヲ通り。六歳ニ
成子ヲ獲テ。三間ホドナゲレバ。持佛堂ノ戸ニ打當ケリ。

母是ニ駭テ。奥ノ後家ニ行テ。唯今ノ雷ニ子ヲ抛ラレタリ
ト云ニ。見レバ音モセズ卧居タリ。何トシ給ソト云テ。引起シテ
レバ死テケリ。驚テ是ヲ見レバ。肩黒ク成タル所斗アツテ疵
モナシ。不思議ニ思ヒ頓死也トテ。其日ハ其儘置ケリ。明日礮
山ト云廟所へ舟ニテ行更ニ。俄ニ大雨降テ車軸ヲ流雷電
真テ四方黑暗ト成東西ヲ失ス。各叶ヌト思ヒ先内へ既
ト議ス。其時水主共是程ノ一臆病也ト。互ニ情ヲ出シ櫓ヲ
推ス。槽行舟ニ添テ。雷聲頭ノ上ニ落掛ヤウニ鳴渡ケレバ。
八人ノ者此度仕損テハ瘴氣也トテ。命ヲ捨聲ヲ掛テ推シ
ケレバ。漸々天モ晴テ廟所へ着ケリ。扱棺ヲ彼ニ陶薪ヲツミ
火ヲ掛テ飯リケリ。明日行テ見レバ死骸ヲ取出シ十間程
遠クニ捨置タリ。宗庵悵ニ見タル也。此後家飽ニテ欲深ク。二外

ヲ用テ。一生ヲ送タル科也。天罰遣スト人々云アハリ。遠州
市野村ニ惣衛門ト云者高野聖ノ宿也。此聖北國立山へ
參詣シケル。惣衛門女房立山ニテ地獄ニ入。彼聖飛掛テ帶
ヲ引留メケレバ。帶ハ切テ終ニ女房地獄ニ入ヌ。不敏ニ思下
向ノ惣右衛門処ニ至テ見レバ女房何事ナク居タリ。去レバ
不思議ニ思。其中ニ何ニテモ不思議ナルヲテレヤト問。女房
答云。夏末ニ蔵ノ内へ入ルニ口本ニテ何者カ我等ガ帶ヲ取
テ。後ヨリカ厄モチイヌ蔵ノ内へ入ケレバ。帶ハ切テナシト
云。聖其日ヲ考フレバ。立山ニテ帶ヲ取タル時ニ違ス。是ニ
依テ委ク子細ヲ語テ。帶ヲ取出シ見セケレバ。肝ヲ消驚入
タリ。聖云。日比何ニテモ悪事ヲバ仕給ヌカ。若心ニ思ヒ當ル
有ハ懺悔ノ科ヲ亡ヘシ人ニ張ス科ナラハ佛神天道ニ懺悔ノ

サレヘシ左無バ必大地獄ニ落万劫ヲ歴凡閻魔ノ責道ヘカ
ズ今ヨリ以後慈悲心深ク正直ヲ專トセバ先世罪業即消
滅スヘシ只一心不乱ニ念佛信心有ベシト其時女房云ヤウ
思當一有日比商賣利潤ヲ本トシ外ニ大小ヲ拵ヘ人ヲ賈
タル科也ト胸ニ當ヒリト其所ノ代官松下浄慶ノ物語也

六食疎ニノ家亡レ事

尾列名護屋ニ岩瀬權左衛門ト云人有下女心ナキ者ニテ
食ノ喰殘多有ケルヲ盡棚ノ下ニ捨ケリ毎日此コトクニ四
五年ヲ歷ケルガ棚下ノ邊皆蛇ト成主人是ニ肝ヲ消且那
坊主金剛寺ヲ請シ如何セント頼ム坊主是身上破滅ノ相也
去ナカラ我云如クセラレバヨカラシカト云テ蛇ト一モ残ズ
拾聚テ常ノ食鍋ニ入テ蓋ヲ覆經咒ヲ讀誦ノ燒セケレバ

如何ニモ奇麗ナル食トナル長老曰是ヲ夫婦ノ皆悉喰盡シ
ハ無事ナルベシ若喰餘シナバ家亡ベシトサスバトテ喰ケレド
モ大分ノ事ナレバ喰餘シケリ兎角身上滅亡也ト云テ坊
主ハ飯ラレケリ頓テ食燒ノ下女兩眼ヒシト禿シタリ扱言
ニ違ズ四五年ノ内權左衛門孫子四五人女房トモニ死果
六年過テ權左衛門終ニ死ケリ食燒女ハ小林村ノ名主ノ
娘也寛永五年ノ事也若原道久悽ニ知テ語也

七鳩來御劔ヲ守居事付神前ノ刀ニテ化物ヲ切事

大坂ノ住太和守古道ト云鍛冶寛永十九年正月十五日
ヨリ禁中様ノ御劔ヲ依リケレハ鼠色ノ鳩來テ吹箱ノ上
ニ居タリ追トモ立ズ大豆ヲ持テ見シトモ喰ズ不審ノ神ノ
折敷ニ入テ喰セケリ日々來リケルガ御劔出來スレハ出行

也亦内裏ニテ銘ヲ截時モ彼鳩來テ守リ居タルト也○香
 清兵衛ト云人ハ下野ノ國碓川ノ生ケ人ト也十歳ノ比下女
 一人付伯母ノ所ニアツケ置ル然ニ彼女伯母ノ氣ニ違テ
 父ノ方ヘ故教誨ノ亦伯母ノ方ヘ返ス事四五度也其後亦
 走り出テ行来ナレ或時伯母煩ヒ付テアヤシキ者切々来
 ルト云ハ煩ノタワ目ナルベシトテ居タルニ伯母今ハ庭ニ来リ
 テ居ル去トテハタワ目ニアラスト云扱テハトテ庭ヲ見ト
 モ何モ無伯母亦青キ物ヲ着テ來ル間々能々見ヨト云
 其時庭ノ物ヲ取ノケテ見ルニ庭ノ角ニ長持アリ其下ヨ
 リ青ツキ見ケルガ俄ニ長持ノ下エカ也不思議ニ思長持
 ヲ取逃見ハ彼下女扱ノ様ニ成テ居タリ彼女居野無テ
 裏ノ木ニウツロ有是ニ籠リ居テ三年送ル也ト云扱モ思

ヤツカナト云テ切ニキレズ弥々腹立何ト切ドモ切ズセシカタ
 ナキ所ニ加様ノ化者ヲハ神社ニ籠タル刀ニテ切ト云人ア
 リ去ハトテ八幡ニ籠タル刀ニテ切ケレバ即チ首落ケリ此化
 者灵ト成テ皆々取死シケリ今ニ神ニ祝テ碓川ニ有也

八石塔人ニ化事

出羽ノ國米澤ニ先源寺ト云寺アリ慶長ノ始比此寺ノ大
 ナル五輪人ト爲テ路ヘ跳出ル處ヲ修里内ノ五兵衛ト云フ
 者袈裟掛ニ切離シタリ彼五輪見タル鉄存ト云長老語玉
 フヲ防州山田東觀寺ニテ聞也

九鳩ノ愛執之事

寛永十年ノ比去家中伴ノ市右衛門ト云人ノ庭ニ鳩來
 則チ鉄鉋ニテ打殺ス頸ニ當テ頭ナレ其後又鳩來是ヲ

前ノ如ク打ち。毛ヲムシラス。脇ノ下ニ鷹ノ頭ヲ挾テ。日数ヲ計ル。今日ハ先月鳩ヲ打ちタル日也。是ヨリ驚テ殺生ヲ休ケリ。市右衛門傍輩衆慥ニ語ル也。

十母鳥子之命ニ替事 猿寺エ來子ノ吊ヲ頼事

三州衣ト云。則ニ鈴木依兵衛ト云。町人鷹數奇ニテ。或時子雲雀ニ鷹ヲ逢セケル。鳥間近キ。鷹ニ母鳥居ケルガ。子ト鷹トノ。合テ隔テ取ラレケリ。依兵衛是ヲ見テ。則チ鷹ヲ休メケリ。正保年中ノ事也。○越前サバヤノ町ニ猿引有彼ノ猿子ヲ産主ニ向テ。手ノ指ヲ三ツ擧タリ。猿引心得テ。已ニ三日ノ暇ヲ出。我々ハ飢死スベキカト云テ。一月モ不許引回ル間子猿頭テ死ス。母猿泣悲テ。頭ノ髮ヲソル真似シタリ。去程ニ母猿ヲ許シケレバ。子猿ヲ抱キ寺ニ行テ。手ヲ合。坊主

ヲ拜テ。子猿ノ頭ヲ剃。真似シケル間坊主心得テ。剃カシメ。髮ヲ剃人ノ如ク能吊テ塚ヲ築タリ。夫ヨリ母猿歎テ。腰抜テ用ニ立ス。猿引無道心者ニテ。敲キ殺ケリ。猿引頭テ腰抜タルヲ人々惡ミテ。路傍ニ捨テ殺ケリ。

十一鷄寺入スル事

濃洲加納久雲寺ニ。何トモ無鷄ニツ來ル。十日程過見。鳴平太夫來テ是ヲ見テ。住持ニ此鷄ハ何方ヨリ參タルヤト問。住持知スト仰ケレバ。扱ハ我等鷄也。十日以前ニ夕去ノ料。理ニスベト云ハ。其儘逃タリト云。住持之ヲ聞テ。扱テ八宿。シ至ヘト仰ケルヲ。尤也ト請合ケレバ。其儘平太夫ヨリ先ニ鷄ニツ氏ニ家ニ皈ル也。

十二鯨人ノ夢ニ告テ命ヲ乞事 付牛夢中ニ命ヲ礼ヲ云事

十二鯨人ノ夢ニ告テ命ヲ乞事 付牛夢中ニ命ヲ礼ヲ云事

江州佐和ニ鶴ノ何某ト云人或夜ノ夢ニ大ナル鯨魚來テ我々明朝是へ參べし必ズ放テ給へト云一庵ト云醫者ノ方ヨリ來ルベキトノ夢也夜明テ何某母ニ向テ今夜咲敷夢ヲ見タリト語ル則一菴ヨリ桶ニ入テ鯨ヲ持來レリ見ハ真ニ夢ニ少モ違ズ眼ボチクトシテ居タリ則生ニケリ是ヨリ彼人善者ニ成ケルト也○賀州八幡ニ市右衛門ト云者牛ヲ賣ニ友達此牛ハ殺ノ喰ントテ買ト云市右衛門是ヲ聞急ギ買手ノ方ヘ行様々侘言ノ牛ヲ取返ス其夜枕本二人來テ市右衛門ヲ起シ今日命ヲ助ケ給コト黍ト云起テ見バ牛也是ハ四郎右衛門内又市物語也

十三馬ノ物言事 付 犬ノ物言事

武州神名川ニ旅人宿ヲ取テ雨降ケル故亭主ノ羽織ヲ

盗ミ著テ行ントスルニ何者ヤラン其ハ亭主ノ羽織也何トテ著テ行ゾト云ホドニ傍ヲ見居人ハナレ聞又由ニテ出トスシバ亦右ノ如言ヲ聞ニ馬也此時馬ニ向テ何事ゾト問バ我ワ亭主ノ甥也伯父ノ造作ヲ受タリ此恩ヲ報セン爲馬ト爲來今少ノ債アリ錢七十五文出セバ際明ナリト言餘怖敷ク覺テ亭主ニ委ク語ル亭主聞テ扱モ不思議ノイカナ此馬能使ルノ類ナレ唯人ノ如ニ覺タリト語ル其後人來テ彼馬ヲ借七十五文取ケレバ則死ス寛永年中イ也内藤六衛門送ニ語也○江州ニテ有家ニ盗人入テ物ヲ取トスルニ彼家ノ馬狂テ怖布躰也暫シ静テ又出トスルニ馬追掛テ其取物遣間敷速ニ置ト云盗人駭テ子細ヲ問ケレバ我先ノ世ニ此亭主ノ米ヲ一斗盗タル科ニ依テ今馬

ト爲テ四年此ニ有九外相濟シテ。今一外スミス。是ヲ押テ
償ベシト云。盗人聞テ。賊物捨テ去ケリ。盗人餘ニ怖布覺テ。
其後彼家ニ往テ。馬ヲ借ト云。亭主此程間モナク。使故馬草
卧タリ。借間敷ト云。駈賃銀過分ニ出ト云。強テ借ケリ。
彼馬ノ債ヲ償シメン爲也。其ヨリ返テ。馬即チ死ス。盗人後ニ
來。懺悔シケリ。人々知テ。陰無事也。○秀頼様ノ餌指ノ趣ハ。
犬ノ生肝ヲ買ニ來ル。銀三枚ニ直ヲ究メ。女房犬ヲ引テ裏
エ行ニ。彼犬迹ヲ見返テ。怖敷女哉ト云。是ヲ聞テ。買人進去
タリ。男外ヨリ。飯ケレバ。女房悔テ。今日銀子ヲ取。迦ニタリ
ト云。男子細ヲ問ハ。女房シカクト語ル。男聞テ。扱モ怖敷女
カナト云テ。行方知ズニ。出行タリト也。
十四蛇人ニ遺恨ヲ依事。付。犬猫ノ遺恨ノ事。

上総國東土川ノ江南方村ニ。左衛門四郎ト云者ノ舅。依
場エ出テ。雉ノ羽。敵キスルヲ。見付テ。取上ケレバ。蛇ニ纏テ
居タリ。彼蛇ヲ取放テ。鳥ヲ持來テ。汁ニ煮テ。隣ノ人ニ
モ振舞トテ。鏝ニ入。鑰ニ掛タル時。彼蛇纏ニ傳ハリ下ケル
ヲ見テ。皆逃去。彼亭主此蛇ヲ打殺ノ。鳥汁ヲ喰ケリ。其
後蛇彼者ノ腹ヲミケケルヲ。鎌ニテ。截捨ケレ。尾亦ハ腹ヲミ
キクスル程ニ。後ニハ蛇ヲモ汁ニ煮テ。喰ケレ。尾終ニハミキ
殺シケリ。彼者ノ塚ニ蛇多ク聚リケル由。聳ノ左衛門語ヲ
悞ニ聞也。○菅沼何某内ニ。犬殺ノ役ニ出タル。庄助ト云者
有時犬ヲ殺ニ行ニ。犬繫レ。下走リ。掛座助ガ足ノ踵ニ。喰付
ケレ。バ次第クニ。腐入痛煩ニ。氣違テ。犬ノ事斗リ云テ。死ス。
忽チ報ラ受タリト。彼家中衆語レタリ。○三洲足久志

村甚五郎麴ノ猶子ヲ三産タルヲ著物キセ置麴ニ母橋來
テ子ヲ尋ケルヲ汝ガ子ハ三ツナガラ是ノ白犬喰タリ
ト云ハ即麴ノ入口ノ糠俵ノ上ニ上リタリ居テ彼犬食
喰麴ヲ向ニ廻リヒヨツト飛付兩手ニテ眼玉ヲ掻抜キ逃
行テヨリ二度返スト也○相州戸塚ノ近所ニテ鷹ノ餌ニ
犬ヲ一步充ニ二度追賣ケレハ二度ナカラ逃テ來亦三
度目ニ賣時彼犬男ノ咽ブエニ飛付喰殺ケリト也

十五蝶ニ吞レ糞生スル者ノ事

江州ニテ去者木ヲ切ニ行九ツニナル子鎌ヲ持テ行此子
ヲ蝶吞テ腸フトク成テ行ヲ見テ父追付銚行ヲ蝶ノ胸
舂へ打籠ケレハ其儘吐出シケリ其碓ハ頭ノ毛抜タリト
云トモ頓テ本ノ如生タリト也其子廿七時受三見語也

○濃州岩村ニテ去者蝶ニ吞レタリ小脇指ニテ腸ノ切碓
リ出シタリ此男ヲ鈴木權兵衛見タリト語也

十六大河ヲ覺ス走事

奥州會津吉村清兵衛ト云仁松平下野殿遠行ノ時驚テ
會津ノ城下ノ河ヲ覺ス走り通ケリ故リニ舟ニテ越ケル
時川ヲ見出シタリ又左衛門ト云者語也○酒井何某殿
鷹師秘截ノ鷹ヲソラス時アツト思見ハ向ノ森ニ鷹有是
ヲ見テ翔付テ鷹ヲ居上タリ故トスルニ大河有テ越シス
ニ里廻テ舟ニ乗テ故ル也傍輩衆皆々知タル也川ハ
ト子川也

十七雪石夢物語之事

尾洲名古屋ニ夕野雪石ト云人或夜ノ夢ニ去年死タル

近所ノ平岩跡五助ト云仁來テ我ハ高麗へ生レ行也ト告
タリ。雪石聞テ御身無道心ニテ。畜生ニ似タル人也。高麗ハ
畜生國也。左モ有ヘシト言ハ跡五助腹立氣色ニテ亦徒ラ
事ヲ云トテ。雪石股ヲツ子リケレバ夢覺タリ。明日一日ハ
腹痛タリト。雪石直談ノ由平人物語也。寛永ノ未クテ也
十八實盛或僧ニ錢麈ヲ告事
備州ニテ或僧ノ夢ニ我ハ實盛也。我屋敷ニ錢ヲ埋置タリ。楲
クサラシテ悲シト告タリ。此事語り廣メテ。越前へ聞エ國主
ノ耳ニ立咲敷事ナレドモ自然有モヤスラン。屋敷ヲ掘セテ
見ヨト仰ケリ。花輪何某ト云人奉行ニテ掘セケルニ蓋モナ
キ甕一ツ掘出シタリ。錢ハクサリテ土ノ如シ。鑄物師ニ下サレ
鐘ノ中ニ入ヨト仰付ラレタリ。實盛屋敷ハコシコク七箇村ノ

内ニ乙坂村ト云所也。樋口村ノ双平山ノ上也。元和ノ未
ク也。花輪何某物語リ。兼田三郎左衛門聞テ語也
十九産子ノ死タルニ註ラ作ノ再來ヲ知事
濃州池田ノ村ニ。又右衛門ト云者アリ。其女房面テ半分
薄墨色也。彼譚ヲ聞ニ彼女房ノ親子共ラ多コロレケリ。或
時子死ケレバ彼女房ノ母子數多死テ上ニ其子守鍋墨ヲ手
ニ陰死タル子ノ片面ニ陰付頓テ生レ給ヘト云テ捨ケ
リ。其子頓テ生レ來テ。後迄ソカチケリ。此女房五十斗ノ
比見タル人語也。○江州佐和ノ足輕ニ。戴歳ジ、ニテ三人迄
子ヲコロレタル者有餘。不思議ニ思小刀ニテ腕ヲ撞捨ケ
リ。然ルニ四人メノ子産ケルニ。慥ニ其疵有ケルト。去人語り
ケリ

尤幽冥來テ筆用スル事付布施配事

紀州勇士其ト云人ノ祖父賄為ケル時筆用ヲ遂ス病死
ス相役ノ者外負多ク有ケルヲ手形ナド盜テ彼死人ニ負
ス故ニ勇士跡立ズ刺子共死罪ニ定ヌ然ニ勇士下部ノ
鶴ト云女俄ニ煩一夜卧早朝ニ起手水ヲ遣面色易テ口
走ケリ扱々憎奴原哉余ニ無質ヲ云掛跡滅亡ニ及コト
無念ナリ先御公儀へ申御目付ヲ乞相役ハ云ニ及ス手代
共ヲ喚ヘシ急度筆用ヲ遂ト云即此由公儀へ申ケル頓
テ目付相役人手代共來扱彼下女出合一言云出ト其儘
主人音聲ニナリ相役ニ向テ其方非興ナリ我越度ナレ只
今御目付ノ前ニテ筆用ヲ遂ヘシト云テ硯筆取寄日記ヲ
付ケルニ無筆ノ下女筆ヲ取テ書ニ主人手跡ニ少モ違ハス

扱如何程ノ手形其方ニ在只今出ベシト云相役陳ゼント
ケル其爲ニ杜御目付ヲ申請タリ少モ扱ベカラス其々ト
云間力不及辺著ヨリ手形ヲ出即一々ニ筆用ヲ合ケリ
此時人々後世ハ有力無カト問バ我ハ筆用ニ來タリ後世
ノ沙汰無益ナリト云テ筆用ヲ究名判爲最早埒明タリ
ト云テ退又打卧暫煩テ本復セリ人々希代ナリト云アヘ
リ内藤八衛門聞テ悵ニ語也卯ノ春ノフ也○上総東金
下門屋村左吉ト云者母ノ年忌ヲ吊フ時大真ト云廿歳
斗ノ僧亡者ノ取立子ナレハ我爲ニハ親也布施ハ取間敷
ト云テ返ケリ吊ヒ適テ皆々家ニ飯ヒバ城宅ト云座頭ノ
姉召仕ノ六十餘ノ下女ワット呼フ何事ゾトテ氣ヲ付ケ
ハ口走リテ子坊主ニ會度ト云城宅定テ大真ノフナルベシ

ト云テ。則チ呼ケレバ大真法華經八ノ巻ヲ持來テ誦也。彼
女阿羅馴敷ト抱付ケレバ大真逃トス。城宅呼テ逃バ出家
ノ耻也。言語道断ト云ケレバ大真留テ經ヲ誦ムニ跡馴敷
ト叫居タリ。城宅扱ハ女ハ後生惡シ如何様ナク苦患ソト
問バ佛事ノ内一人ノ僧布施ヲ取ズ。五外ノ米二百ノ代
物カスノ内工入寺へ遣ス。其儘置故ニ是我苦ト成ト云。
扱ハ米代物何方へ遣ベシト問バ齊坊主へ遣給ヘト云。則
米代物寺へ遣ケレバ是ニ理申度故ニ一兩日逗留シタ
リ。今ハ飯トテ走出テ行ト云テ則庭ニテ倒卧良アツテ起
ノ問ハ能寢入テ何事モ覺ズ去ナカラ何ヤラン上ニ覆懸
斗ニテ有タリト云。寺ハ高野村妙福寺也。寶末十八年ノ
事也。

九一云母來テ娘ニ養性ヲ教ル事。夫ノ幽冥女房ニ藥ヲ與事
尾州名古屋朝倉市兵衛内儀恒ニ病者也。或夜夢ニ亡母
來テ汝ガ病ハ禁物ヲシタラバ治ス可ト告タリ。娘聲ハ送
母ノ聲ナルガ。形ノ見エ玉ワズ如何ニト云。母云生死ヲ離テ
形チナシ。娘云ク扱ハ何ヲ禁物ニ爲ヤ。母云ク七色有第一
米ヲ三年絶ベシ。其外六ワ一生ノ内絶ベキ也。五辛ノ類。鷄
鯛。蒲萄。酒。菌ノ類也。必々疑アルベカラズ。此證據ヲ知スベシ。
明日晝時分南無地藏大菩薩ト三返唱テ起テ見ヨ。必立
一叶ヘカラスト。懇ニ告了レリ。娘夢覺テ之ヲ怪ミ疑去。問
告ニ任テ明日晝程南無地藏大菩薩ト三返唱テ立トス。
ハ。總身直ミ挑燈ヲ疊ムガ如ニ覺テ立テ中々叶ズ。是ヨリ
疑心ナク。信心ヲ發シテ絶物ヲスレバ。早速ニ無病ニ成タリ。

母亦夢ニ告テ云汝ニ米ヲ絶スルハ過去ニ米ヲ悪クシタル科ノ故也何モ報ノ理有ト委ク教ケリ前方煩ノ中ニ食ニ向ハ腰痛ミ苦ム故腰ヲ打セテ少充食ヲ喰ケリ扱教ノ後屋移リ粥ヲ少食ケレバ即煩發テ苦シカリケリ急キ持佛堂工向テ佗言ノ經咒ヲ誦シレバ煩テ本復スル也○武州神田吉祥寺ノ會下ニ吞養ト云僧有七歳ニテ父ニ離タリ九歳ノ時母大熱ヲ煩ヒ既ニ末期ニ及ブ時ニ亡父夜半ノ比木履ヲ著テカタクトノ來リ戸細目ニ開キタルニ内へ入テ吞養ニ言ヲ掛テ昨日モ來レドモ其方ニ逢ズト云テ女房ノ額ヲ押ヘテ大事ノ煩也死病ニ究ミル二人ノ子トモ何ト成ベト悲テ藥ヲ與ベト云女房作庵ノ藥ヲ用ル故餘人ノ藥ハイヤト云バ夫ト先々吞ト云テ印

籠ヨリ練藥ヲ取出シ口ニ墜テ湯ヲ吞セヨト云十二ニ成姉娘湯ハ又ルシト云ヘバヌルクトモ飲セヨト云テ吞養ニ暇乞シテ去バト云テ出ルニ戸ハ立テ有此時吞養扱ハ今ノハ父也ト知藥ヲ取出ス時右ノ手ノ小指少曲タルヲ見テ恠ニ父也ト知也扱又ニ階ニ寢タル助市ト云者今ノワ父跡兵衛聲也ト云ヘリ母ハ彼藥ヲ飲ト口涼々ト覺テ氣色能様ナレドモ一頻煩テ汗出テハツ過ニスキト本復メ子共寢ヨト云テ衣物著テ寢ケリ明日ハ早朝ヨリ起テ茶ヲ煎シ近邊ノ人ヲ呼飲セケリ人々希代也ト悦江戸鉄鉦町ニテ陰無ク也母四十七歳ノ時也牛込天徳院ニテ吞養直ニ語ルヲ聞也
九二七者錢ヲ取返ス事 付 鉄ヲ返ス事

尾州愛智郡星崎村ニ彦十郎ト云者信者ニテ後世コトニ
精ヲ入ケリ。四十ノ比女房ヲ去ケルニ舅ニハ不足ナキ故
本ノ如ク出入ス女房頓テ死ケリ。然間亦女房ヲ求ケリ。
彦十郎四十二三ノ比白山立山へ參詣シケルニ立山ニテ
本ノ死タル女房出テ。彦十郎ニ向テ。其方ハ我等父ノ方
ヨリ。羅間敷錢ヲ取也返シ玉ヘト云彦十郎聞テ左様ノ
有トテ舅ヨリ請タル錢五十文速ニ返シケリ。其後笠
寺ノ鐘撞ト成テ居タリ。慶安五年ノ事也南野十左衛門
語ヲ聞也。○越中ニ宇ノ津ト云鍛冶有人打物誂ル時古
鉄多遣ケレバ打物打餘タル鉄ヲ取ケルニ彼宇ノ津立山
參詣ノ時地獄ノ中ヨリ高聲ニ打物ノ時餘タル鉄ヲ。只今
返セト呼ル是ヲ聞テ大ニ驚キ腰ニ持タル錢三百文地獄

エ抛入ケレバ是ハ多シトテ半分返シケルニ此錢燒テ満合
ケリ。是ヲ持家ニ取リ。ホドノ上へ彼錢ヲ掛置テ。出入ノ人
々ニ見懺悔ノ此謂テ語ト也。今井四郎左衛門語也
此三凶灵來テ子ヲ産事付云母子ヲ憐ム事
羽州最上ノ山方ニ灵童ト名付者アリ。彼謂テ聞ニ最上
ノ商人京上リ。女房ヲ持ケルガ。捨置最上へ下廻ニ京ノ
女房尋子來ル。此時山方ノ女房ヲ去京ノ女房ヲ家ニ置
子一人儲。其後亦京へ上本ノ宿工行ケレバ亭主見其方ノ
女房死テ三年ニナル由テ語男聞テ叔々不思議ノ事カナ。
彼女最上へ下廻子一人有ト云父聞テ悦テ限無急キ
最上へ下廻家工行ハ女房部屋へ入テ逢ズ父餘ニ堪兼
部屋へ入テ見ハ京ニテ立タル卒塔婆也。戒名年号疑ナシ。

之ニ依テ其子ヲ。其童ト云リ。○攝州大坂ノ近所ニ死タル
本ノ女房來テ。子ノ髮ヲ結事三年也。或時來テ今ノ女房
ノ舌ヲ貫ケル間様々養性ニテ能成離別ニテ他所へ行ト
也。○紀州ニテ或人ノ内儀難産ニテ死去ス然トモ子ハ生テ
息災也。彼母ノ亡来テ子ヲイダキ乳ヲ吞セ。三歳ニ成
迫ンダテケリ。女房十七歳ノ年死ケルガ。三年過テモ十七
歳ノ形ニ見タリ。其子十七八ノ比見人慥ニ語ル。色少シ悪キ
男也ト云リ。

尤四生子田地ヲ沙汰スル事 付生子親ニ崇ル事
濃州別不ノ近所仁井村ト云。剋ノ六太夫ト云者。寛永十七
年三月ノ比女房二子ヲ産同六月或夜男ノ聲ニテ。我ワ
別不ノ宗兵衛也ト。高ラカニ名乗六太夫目醒テ是ヲ聞テ

如何様我ニ怨ラ爲トテ來カト思帶ラシメカヲ取テ之ヲ
聞ニ女房ノ寢處也。夫女房ノ寢語カト思起ノ見ニ寢入テ
起ズ。頻ニ名乗聲女房ノ懐也。餘不審ニ思二人ノ子ノ口ニ
手ヲ當テ見バ此内一人息ヲ吹懸テ名乗也。去程ニ汝ハ
何ヲ言ソト問バ我ハ別不一向宗ノ毛坊主宗兵衛也ト云
何トテ來ソト問バ我此世ニ有シ時子共ニ家ヲ渡ニ田地
内徳多キ所ヲ子ニ渡ス。惜思此心強キ故ニ生レ來タリ
ト言フ。其田地ハ何ト云。剋ゾト問ハ八年具四斗納テ。九俵取
剋ト亦八九斗納テ十五六俵取。剋ニ箇剋有此外何程ク
ト云。六太夫委ク覺エテ。十七ニ成市十郎ト云。甥ヲ呼テ
一々ニ書付サセ。夜明テ別不へ行此由尋聞ニ子息宗兵
衛少モ違ズ。親三年前ニ相果ラレタリ。田地ノ様子少モ

違スト云則六太夫颯工子ノ宗兵衛來テ物言タル子ヲ見
歎キテ飯ル六太夫七歳ノ者也予伊カ所ヘ行直ニ語
悵ニ聞也○東三河賀茂河原ニ二子ヲ産者アリ夫ニ陰
ノ一人ノ子ヲ立白ノ下入殺ケリ其子頓テ父母ニ取付
テ白ノ下ニテ苦患シタル如ク手足ハクメキ無言ニテ死ケ
リ兄弟一人以上三人取殺今残一人ノ子ヲ資爲ニ伯父
與次衛門ト云者牛雪和尚ヲ頼入吊ケレバ是ヨリ崇事
ナシ

此五常ニ惡願ヲ起女人ノ事付母子至ニ相憎事
三洲大平河ヨリ二里程上鍛冶屋村ト云所ニ去百姓ノ女
房日比惡願ヲ發ノ子共ヲ喰殺ドウガ洲ヘ行ベト云ケ
ルガ四十ノ比病ヲ受煩重ク成ニ付テ以ノ外大食ニテ様

子惡敷故座敷ヲ拵ヘ立籠テ置ケル子共ヲ内ヘ入食
喰セヨト言ヲ危ク思男食物ヲ籠ノ内ヘ入ケレバト
腕取引入トスル間入ト外ヘ引互ニ引合颯ニ腕ニ喰付
テ放ズ驚テ人ヲ呼ハリ大勢ニテ縛トスルニ女房ノ腕又
スリテ取留ケテ叶ズ終ニ六敲伏六間ノ家内ノ柱毎ニ縛
付テ置ニ家ヲユルガスノ地震ノゴトシ親類兄弟是ヲ見テ
打殺シ玉ヘトテ忽チ打殺急キ棺ニ入テ野邊ヘ昇出
ス導師ハ阿曾村ノ阿弥陀寺也野邊ニテ棺ヨリ起キ上
リユルギ出ルヲ又敲殺押入火ヲ掛テ焼ケリ遠近陰無
也寛永年中ノ也○江州大塚村三榮和尚語テ云地下
人息女ヲ持ケルガ此母娘ヲ愛スルノ限ナシ然ニ似合布笠
ヲ取近所ヘ遣ス其ヨリ母弥悲ニ胸若ヌリ終ニ母ノ思

念娘ニ付テ煩惱ス。娘母ノ付ルヲ覺テ。心慮母ニ語ル。母
是ヲ聞テ駭キ。思切トスレ。思休ス。跡深クナル。是ヨリ娘
母ヲ見ハ。恐キ事限ナレ。頓亦娘ノ念母ニ付テ惱ス。恩愛
ヲ忽ニ變メ。互ニ敵ト爲テ。思狂故ニ。母ノ方ヘ娘ヲ呼奇テ。
座敷籠ヲ拵ヘ。間ヲ隔テ入置ニ。口ヲキ、互ニ罵詈誶諍ス。
頓テ母死ケルヲ聞テ。娘限ナク悦ケルガ。三日ノ中ニ死ケリ
廿六幽霊ト問答スル僧之事。付幽霊ト組僧之事
奥州會津松澤ト云。剋ニ禪宗有。即松澤寺ト号ス。住持女
人ノ塔婆ヲ建置ニ。文字一字書違ケルヲ。秀可ト云。長老
改書直シケレバ。且那共無智ノ僧ナリトテ。前ノ住持ヲ追
出シ。則秀可和尚ヲ住持ニ成。或夜迷霊來テ。秀可和尚ニ
對面シ。問テ云。我獄中ニ入テ種々ノ苦ヲ受。和尚濟給ヘ。

答云。圓通ヨリ出テ。圓通ニ入何ノ処ニ。カ獄中有。云獄中
ヲ論スル。コトナカレ。此躰ヲ見ヨ。和尚云。其躰即佛性ニ。隔無
異云。名ヲ付テ給ヘ。和尚云。本空禪定。尼。即消失。又秀可
長老直談ヲ聞也。○下総國東金妙福寺ニ。教住坊ト云。強
カ僧有。曉御堂ノ勤ニ行ケル。二怖布大入道立テ居タリ。倚
テヒト組合良久シ。ノ組勝ケレバ。何カ腕ニ。喰付タリ。即目
ヲ舞氣ヲ失居タルヲ。人々寄テ見バ。腕ニシヤリ。頭ベ喰著テ
有。住持珠數ヲ持テ。敲落シタリ。其後百日斗。頃テ本復ス。
天正ノ末ノ一也。○會津長沼末光寺ノ。欣察ト云。僧或夜
小用ニ出。ハ其跡ニ人一人立テ居タリ。啟テ言テ。懸トドモ
返答ナシ。扱ハト思組ケル。彼人カ強シテ。倒ルヲナシ。衆寮
坊主聞付テ。走出。是ヲ見。即一喝スレ。ハ倒ケリ。火ヲ燃シ

テ見ハ卒塔婆也文字八十於佛土中唯有一乘法無二亦
無三除佛方便説ト書テ有十三年忌ノ供養ノ塔婆也秀
可和尚語給也

廿七換生ノ僧四十九ノ釘ノ次第ヲ記事

日光山寂光寺寛永ノ比ヨリ百五十年以前ノ住持ハ佐
野何某兄弟也此坊行證久ク無勤學問工有テ殊勝第一
ノ人也或時頓死シテ具途ノコトヲ記シテ普愚蒙ラ驚カス
彼記録ノ中ニ四十九ノ餅ヲ備四十九院ヲ供養スル因縁
并ニ四十九ノ釘ノ次第ヲ載ラルハ八寸釘十六本一尺六寸
釘六本六寸釘十二本残ハ皆五寸釘也四十九日ノ間念
佛四十九万返唱ヘハ此釘ニ當スト書付テ有日光山參
詣ノ者ヲ所望シテ拜見スルト也

廿八卒塔婆化ノ人ニ食物ヲ與事

上州鹿久保村ニ内近ト云人碓水合戰ニ數箇処手ヲ負
テ卧タルヲ討死シタリト思テ捨置宿工故リ忌日々々ノ
吊ヲ依一周忌ニ當テ供養ヲナス処ニ何國トモ知ス若僧
來内近ト云人山中ノ木ノウツロニ活テ有迎ヲ遣給ト送
ニ傳言ナリト固ク云届テ去ヌ子息聞テ不思議ニ思彼
僧ニ對面シテ委問ト走出尋ケレトモ行方ナシ去程ニ山
中ニ行テ此彼ヲ尋ケレハ木ノウツロニ身ワ片輪ト成テ余
糸テ有子嬉サ限ナク扱如何ニト子細ヲ尋ニ寒キ時分ナ
レハ寒テ本性ナシ急キ火ニ當暖ケレハ漸本性ニ成テ語
ケレハ今迄坊主七人ニテ一日替ニ食物湯水ヲ與ケル其
中一僧鼻欠有レト語子息希代ニ思慮茶園ノ跡ヲ見ハ

七本卒塔婆ノ中ニ本闍目有七人ノ僧ヲ定テ是ナルベ
シト當追善ノ儀疑ナキト信ゼシ也ト彼人ノ孫三河吉
田ニ有ケルカ三澤ニ語テ慳也誠ニ卒塔婆ナド能拵テ立
ベキ也殊ニ冥供ハ能々念比ニ備ヘキ也

廿九夙因ニ依テ經ヲ覺サル事

河内國古久保ト云處ニ願興寺ト云寺ノ小僧利根ニシテ
能經ヲ誦ドモ其内一卷何ト習テモ覺ズ此ヲ不思議ニ思
佛神ニ祈テ掛ケレハ夢想ニ告アリ汝ハ幡州志綜合ニ寺有
彼寺ノ小僧也火ノ火ニテ經ヲ誦ケルニ居眠シテ取落經
ヲ火ニ入テ燒失フ此科ニ依テ彼經一卷覺スト也小僧則
幡州エ行テ尋ケレバ彼經一卷燒失タルト云過去ノ父母
今ニ存命ニテ彼小僧ヲ見古ノ我子ニ違ズ聲形モ能覺

リトテ愛セシト也

丹畜生人ノ恩ヲ報ズル事

信州上田村ニ守珎ト云僧有近所ノ姥彼僧ヲ養子ニシ
テ小庵ヲ建置姥ハ山中ニ入テ七八年送ル然ニ山中ノ事
ナレハ狼常ニ來テ飼置ケル姥年ヨリテ後里へ下死ケリ
処ノ者則火葬シケレバ彼狼トモ卅疋程來テ守居ケルカ三
日ノ灰寄迫結テ居タリ竟末十二年ノ事也

卅一犬生テ僧ト成事

或所ニ関山汎ノ長老久ク白犬ヲ飼シケルカ去夜ノ夢
ニ犬告テ云我頓門前ノ者ノ子ニ生ト出ノ口間弟子ニ成
サレ玉ヘト云其如ク頓テ死ス角テ門前ノ女懐胎シテ甫
スル月ニ産貪女ナレハ捨ベシト云テ住持聞テ七歳ニテ

扶持ヲ出スヘト云テ助ラレ成仁スト如何ニ正直者ナル
か經ヲ誦フ一切クナラマシト此物語京泉涌志ニテ彼九ノ
生代リノ僧ニ同床シタル真藏主語也

卅二殺生ノ報ノ事

三河下山大森村次郎左衛門ト云者一代殺生シテ世ヲ送
ケルガ足助ノ香積寺工血脉所望ノ爲ニ卅五歳ニテ子
ヲ遣ス住持對面シテ殺生ヲ止ス血脉出ス間敷ト仰
ケル子カエリテ父ニ告父止申スベシト請入ヲ立テ血脉
ヲ授リケリ其後一月程過テ又雉蹄ヲ掛子以テノ外制
シケレバ向後必止ト云処ニ二兩日中ニ煩付古直或ハ卧或
ハ仰ニ成手足ヒリヌカシ咄キリクト云テ雉ノワチニ掛タ
ル如ニ十日程難病ヲ受終ニ無言ニテ死シケリ七日目ニ

搦領ノ子父ノ如ニ煩テ死ヌ十八歳ノ娘ト婦ト十二ノ孫
ト同煩ニテ死ヌ右五人ノ者卅月ノ中ニ死ニ果ケリ焼一
人殘乞食シテ苦居ケリ寛永十四年ノ一也○三州下伊
保ノ清藏ト云者名ヲ得タル殺生ノ上手也夜晝共ニ殺生
シケルガ或夜不圖起テ三ツニ成我子ノ頸ヲシメ雉ノ鳥ヲ
ツキタリトテ放サズ母目覺テ起上是ハ氣違ルカトテ取
放ケレバ子ハ死ケリ慶長六年ノ一也○越中立山ノ入呂
祖母堂ト云堂アリ三途川ノ燒ヲ六十六体造置タリ殺生
禁制ノ地也或餌指彼祖母ノ目ニ鳥糞ヲ塗眼給鳥指ベ
シト云テ鳥多指取立去トスバ兩眼忽ツブレタリ此盲ニ
伊藤久弥ハ切々逢タリト語也慶安年中一也

卅三馬ノ報ノ事

三州野田ノ中村ト云慶二太郎助ト云者干時馬ノ喰
合ラ鎌ニテ敵放ストテ鎌ヲ馬ノ背ニ打込馬ヲ殺ケル彼
者四十四五ノ時馬ニ付シ煩馬屋ニ入テ馬ノ如ニ鳴カハ
ナドカブリ雜水斗ヲ吞在死ケリ○同野田ノ町次兵衛
ト云馬口勞寬永十五年八月ヨリ馬ノ真似シテ眠ヲ見
出シ怖ク鳴楠ナカラ雜水ヲ吞五十餘歳ニテ死ケリ○
慶安四年三月要津長老京四糸ノ塩風呂ニ入至テ更ニ宿
ノ向ノ亭主馬ノ鳴真似ス連ノ人見是ハ唯事ナラズ長
老利益二吊玉ヘト云尤ナレドモ願ワ彼者我ヲ頼カシトア
レハ是ヲ聞彼ノ者長老ヲ頼サラバトテ逗留中七日程吊
ヒ玉正ハ則本復ス汝何者ゾト問玉ヘハ本馬使也ト云ヘリ
ト也

卅四乞食ヲ切テ報ヲ受事

江州ニテ去侍ノ子共十五歳十八歳ノ人常々等閑ナク唯
ケルガ或時兩人町エ出乞食居ケルニ向テ其機ニテ居タル
ヨリ死度ハ無カト問ケレバ尤也死度上云左有トテ既ニキ
ラントス時ニイヤク死度モナシ無理ニ殺玉ハ崇ベシト云
ドモ聞ズ終ニ切タリ扱十日ニ過サルニ兩人少ノ遺恨ニ
テ討果シケリ後ニ聞ハ文ノ返事セサリシ遺恨ト知タリ
諸人乞食ノ報也ト云アヘリト也

卅五幽霊刀ヲ借テ人ヲ切事

攝州大坂上寺町淨土寺有且那日待ヲスルトテ寺エ集リ
タリ日待ノ施主用有トテ宿正行願ニ寺ノ門外ニ女一又立
テ居タリ何者ゾト問ハ我ハ此寺長老ノ陰謀女也我煩ノ

中長老申シハ其方死セバ別ノ女房持間敷十約束アル事
ニ頻テ女房ヲ求ラル其方ノ脇指少ノ間借タシト云事
ナレドモ用有テ宿工行間成間敷ト云ハイヤ唯今返スヘ
シト云ラ去ハ借トテサヤナカラ借ケレハサヤハイラヌ三斗借
セト云テ三斗スキテ門ヨリ内エ入道ナラバ十間程行内ニ
早ヤ來脇指ヲ返シ其方故ニ日比ノ遺恨トゲタリトテ
消失又且那宿工行ス寺エ故テ長老ヲ呼立件ノ由ラテ
六長老所ヲ消方丈エ入テ見ハ女房ノ首落テ有ト聞
寺号モ慳二聞トモ態ト書又也

六六精靈棚崩テ云者寺ニ來事
尾州智多郡大野ト云所ニ後家有一人ノ娘ヲ持宗十郎
ト云者ヲ入尊ニ取子三人有シ時宗十郎死ス七月十四

日ニ母ト娘トイサカヒテ佛棚ヲ打崩シ備タル供物ヲ
皆取捨ケリ且那寺ノ泉蔵主棚經誦ニ來見ハ棚打クツ
シテ有故ニ經ヲモ誦ス寺エ故リ居ル所ニ死シタル宗十
郎白キ締ヲ著並ヲカブリ寺エ來リ佛ヲ拜庫裡姥是ヲ
見テ宗十郎來トイハハ泉蔵主聞夫ハ不思議ナリトテ
出テ見ハ施餓鬼棚エ登テ消失タリ是ハ泉蔵主弟子物
語也寛永年中ノ事也

助縁

武州江戸

緇素若干人

江州澤山

僧俗若干人

尾州 賀州 越前 肥前 肥後 城州京

緇素若干人
道俗若干人
僧俗若干人
緇素若干人
僧俗若干人
緇素若干人

寛文元 辛 丑 杓

臘月上旬日助縁開刊

因果物語下之目錄

- 一 閻魔王ヨリ使ヲ受僧ノ事 付 長老魔道ニ落事
- 二 亡者引導師ニヨリ輪回スル事 付 引導坊主ニ就行事
- 三 生ナカラ牛ト成僧ノ事 付 馬ノ真似スル僧ノ事
- 四 生ナカラ女人ト成僧ノ事 付 死後女人ト成坊主ノ事
- 五 僧魂地ト成物ヲ守ル事 付 亡僧来テ金ヲ守事
- 六 知事ノ僧鬼ニ打ル事 付 弟子ヲ取殺ス事
- 七 僧ノ口ヨリ白米ヲ吐事 付 板挾ニ逢僧ノ事
- 八 無道心ノ僧亡者ニ責ル事 付 破戒ノ坊主雷ニ逢事
- 九 悉冥ト成僧ノ事
- 十 座頭ノ金ヲ盜僧盲ト成事 付 死人ヲ争僧機違事
- 十一 惡見ニ落タル僧自他ヲ損スル事

三 愚癡ノ念佛者錯テ種種ノ目ヲ見事
 三 第二念ヲ起ス僧病者ニ苦ヲ授ル事
 四 破戒ノ坊主死ノ鯨ト成事 付 姥猫ト成事
 五 死後犬ト成僧ノ事 付 犬ト成男女ノ事
 六 死後馬ト成人ノ事 付 牛ト成人ノ事
 七 人ノ魂死人ヲ喰事 付 精魂寺ニ来ル事
 八 女ノ魂蛇ト成夫ヲ守ル事 付 餅點ヲ守ル事
 九 五輪ノ間ニ蛇有事
 十 愛執深僧蛇ト成事
 十一 慳貪者生ナカラ餓鬼ノ報ヲ受事 付 種々ノ苦ヲ受事

因果物語下

義雲 雲歩 同撰

一 閻魔王ヨリ使ヲ受ル僧ノ事 付 長老魔道ニ落事
 三 三州土井川妙嚴寺源高長老師近ト公事ヲシテ。二三年江
 戸上詰御奉行衆上目安ヲ上寺ヲ請取ケリ。其後濱松普
 濟寺ノ輪番ニ當テ住ス。然ニ寛永十二年ノ春閻魔王ヨリ
 ノ使トテ。夢ニ告テ十年ノ約束也。早々来ト書狀ヲ持来リ。
 是見玉ヘト云其狀ヲ披見スルニ十年過タリ。驚キ夢ナカラ。
 傍ナル硯ノ筆ヲ取テ十ノ字ノ頭ニ點打テ。十ノ字ニ直此狀
 偽也。急度取玉ヘト云彼使悋十年ト。閻魔王仰ケルガ。十ノ
 字ナレハ先取ラント云。住持縁迫送セラレケレハ。客殿ノ前ニ怖
 敷鬼神二人。鉄棒ヲ提繩ヲ持居タリ。住持是ヲ見殺入シ
 タリ。強憂ナル聲高ヲ聞テ。僧道某テ何事ゾト問ケレハ

扱々不思議ナル怖シキ夢ヲ覺ル。先汗ヲ拭エト云。見ハ
誠ニ水中ヨリ出タル如ク也。其後退院ノ。妙嚴寺ニテ此報
謝ニ。末寺ノ僧達ヲ聚日待ラシメテ。長老方丈ニ眠リ居玉
フニ亦苦キ聲高僧達走入テ起。氣ヲ付テ聞ケレバ。唯今鬼
神来テ。既ニ引立テ行ントスルヲ。漸モギリ放シタリトテ。大
汗ヲ流ケリ。扱隠居牛雪和尚賀茂ト云所ニ住シ玉ニ熊ト
行テ兩度ノ夢ヲ讖悔シテ。去程ニ寛末十五年十二月廿
七日ニ篠田ト云所ニ且那死テ。彼源高長老吊ニ出玉フニ且
那ノ門ノ前ニテ。馬ヨリ落テ殺入スルヲ。漸氣ヲ付ケレ。我
ニ少モ虚妄ナシ。是迷惑ナル一カナト云テ。其後物言ナク。
性ヲ失テ居タル故伴ノ僧亡者ヲ吊ヒ長老ハ乗物ニテ寺
工般リ玉フ。同廿八日ニ捨身赤ナリ。火ノ病ヲ受叫聲大ニ。

牛ノ吼カ如ニ。色々苦痛ノ終ニ死去ス。即チ隱居再住シ
至フ。時ニ本秀和尚見舞給也。○下総國山梨村大龍寺祖竜
長老寛末十五年ノ冬江湖ヲ置少シ法門ノ上手ナルニ依テ
尊シテ。慢心深カリケルガ。半復時分ニ老僧衆二三人ヲ呼
向上ノ事ヲ談メ。我頗テ如何様ナリヤト云。皆常ノ如シト
云ハ。汝等見知ス。ト云テ見ハ。即鼻八寸程ニナツテ。口耳
ノ根迄切タリ。僧達驚見。則ニ長老眼ヲ嗔カシ。口ヲ張テ杖
ノ木ノ下ニテ。我ヲ呼問。唯今出ト跳上。叫ヒ在ケルヲ。漸取
留メ組伏テ。大衆集リ取廻メ。般若ヲクリ心經ヲ誦餘ニ口
ヲ利故。理趣分一卷。口ノ中へ押入ケルニ。易クト入タリ。大
衆強祈ケレバ。山々ノ天狗名乗テ退ク。長老ハ無性ト成ヌ。
扱門前近所ノ者共寺ニ火事。小寺ニ夥シク馳聚ル。何事ニ

来ゾト問ハ客殿ノ棟工火ノ手ニ見故ニ急キ參テ
見バ左ハ無ト云其ヨリ晝夜ノ老別ナク七日七夜祈責ケ
ト。鼻直リ口愈テ漸本復ノ云深ク寢入テ何ノ覺モナシ
ト。人ノ委ク語ヲ聞テ。自ラ前非ヲ悔三年ヲ經テ死去ス。其
時ノ首頂廣春多衆ヲ引キタルナレバ。關東ニ陰無事也
二亡者引導師ヨリ輪回スル事付引導坊主ニ付行事
右ノ源高長老東三河キヤウメイト云村ノ且那死ケルヲ
吊ヒ火葬スルニ頭餘所ニ飛テ。同躰斗焼タリ。三日ノ灰ヨセ
見出し亦焼也。然ニ源高長老死後ノ後三年過テ彼亡者
我娘ニ付テ。ロヲキク事怖敷有様也。并ノ村外ニ全鏡ト
云僧有施餓鬼ヲ頼吊ケレトモ少モナシ。其時所ノ庄屋云
ケル。汝ハ源高ト云善知識ノ引導ヲ受ナカラ。何トテ加様

ニ迷フゾト云ヘバ。娘聞テ能善知識ヤ。其源高ハ牛鬼ニ成
テ。大キナル火ノ車ヲ引。苦ミヲ受テ。其縁ニ依テ我モ苦ヲ
受也。去トモ我ハマダ輕キ故人ニタハリ。茶ヲモ吞也ト云。然
彼娘在氣ハ。終ニ休事ナキ故親類共爲方ナク。妙嚴寺ニ
源高ノ隱居牛雪和尚再住ノ時。伴テ行庫裡ニ置。此在氣
ヲ救ヒ至ヘト頼故様々吊テ是ヲ救ヒ玉ヘリ。折節本秀和
尚見舞ニ至リ。彼娘ヲ見玉フ也。○尾州遠嶋村ノ一向坊
主亡者ヲ吊ヒケルニ。彼亡者頸一尺程長成眼一有テ彼坊
主ニ離ス付行キタル也。遠嶋隣江ノ者三人見ト。慥ニ語也正
保四年亥ノ春ノ也

三生ナカラ牛ト成僧ノ事 付馬ノ真似スル僧ノ事
濃州明知領久保原ニ洞家ノ小寺肴坊主齋ヨリ段リニ地

截繩手ト云所ノ路惡布ヲ直ス折餘近所手向村ノ八截
ト云者通り懸止大ナル黒牛角ニテ路ヲ除八截思様ハ父
保村孫右衛門牛ハ人撞也キヤツハ曲者ソト獨言云テ廻道
ヲ行ハ田ノ中ニ男二人居ケルニ對シ孫右衛門人撞牛ヲ放
置ヲ見ニ角ニテ路ヲ蹴ケル間廻道ノ来ト云彼男共其方ハ
惡口ヲ云ナリ唯今我々頼タル坊主地截繩手ノ路ヲ手カラ
能作ント申サレシ物ヲト云其ヨリ肝ヲ消沙汰セス元和年
中ノ一也○常州宇宿金龍寺開山ノ時ノ納所無道心者ニ
テ生ナカラ黒牛ト成白毛ニテ書タルガ如納所ノ本名分明
ニ有大衆憐ムト雖他ヲ濟スアアタワズ不敏ナルカナ尾ヲ
垂テ前ノ田ニ走ル和尚彼納所ヲ呼来ラシメテ一扱シテ坐
具ヲ以テ打至ハ牛ノ尾切落テ再ビ僧ノ貌トナル其牛ノ

尾拂子ト作テ今ニ彼寺ニ有也○最上ニ有淨土寺ノ春也ト
云塔頭坊主齊ヨリ飯ル毎ニ坐テモ睡リ卧テモ睡リ常住睡
リヲ好ミケリ且那来テ見ニ牛衣ヲ著テ卧居タリ不思議ニ
思ヒ外面へ出テ呼ケルニ起来ハ亦僧也切々此ノ如シケ
ルガ終ニ生ナカラ牛ト爲タリ家上ニテ陰ナキ一也鳥井左京
殿代也○三州田ト云村ノ近邊江村ト云處ニ聚泉ト云獨
庵坊主馬口勞ヲ業トシテ世ヲ渡ケリ寛永十六年ノ春
不圖煩付テ百日程馬ノ真似シテ雜水ヲ馬掃ニ入テ吞セ
即厩ニ入テ置ニ四足ニ立テ足搔ノ狂力強氣色怖布十
リ戒八歳ニテ死ニケリ

四生ナカラ女人ト成僧ノ事 付 死後女人ト成坊主ノ事
武州江戸或山ノ學徒實相坊ハ無類ノ學者ニシテ高慢甚

シカリケルガ。江州坂本真清池ニ入テ法談ヲ演ル。僧俗是ヲ
尊ブ事限ナシ。其ヨリ信州へ行テ。或家ニ一宿ス。亭主馳走ノ
留ル處ニ佛寒ヲ煩ヒ七十日程過本復ノ行水ヲスルニ男根
落テ女人ト爲。其ヨリ學シタル才智文字皆忘ノ愚人ト成。
カラナク酒屋ノ婦ト爲。其後彼山ノ衆徒海道ヲ通ルニ酒
ヲ吞上テ四五人立倚。彼女涙ヲ流シ悲ム。僧衆不思議ニ思
ヒ。故ヲ尋ルニ有ノ儘ニ語ル。此物語リハ牛込泉藏院三光院
語ヲ忠庵聞テ語也。○上州藤岡ヨリ。武州秩父へ經惟子賣
ニ行僧山家ノ町ニテ。或酒屋へ入テ見バ。此同伴シ僧ニ似タ
ル女房アリ。此僧ヲ見テ陰シ又。不審ニ思處ニ暫アリテ。酒賣
ニ出ケルガ。面ヲ陰シテ直ニ見セス。此時其方ハ我近付ノ僧ニ
似タリ。若其姉カ妹カニテ有ラント云ハ。黙トシ涙ヲ流シ與

ニ入去アタリノ人ニ此女ノ来趣ヲ尋ル。上野筋ヨリ来ト
云トモ。親類知スト云ヘリ。亦皎ニ立倚彼女ヲ呼出問バ。我ハ
御僧舊友ノ何某ナルガ。何トナク煩ヒ付テヨリ。不圖男根落
テ女ト爲。モハヤ子二人有無念ノ次第也ト。泣々語リケル。寬
永年中ノ事也。○江州高野永源寺ノ末寺。鮫村ニ有此坊主
アカリテ。片目也。化名ニアガ坊主ト云。此坊主陰シ子有出
家ニ爲テ跡ヲユル。此子坊主還俗シテ。即寺ヲ在家ニシ。女
子一人男子一人持親坊主死ノ後。アガ有テ片目ナル。大地
出来テ屋敷ヲ離シズ。彼孫娘モアガ有テ片目ナルガ。十九ノ歳
縁ニ付ケルニ。其年ノ暮ニ夫ニ暇ヲ乞テ家ニ飯リ。尼ト成テ
弟ニ繋リ居タリ。惣ノ此娘餘所ニテ。食物食事叶ズ。首痛
故ニ餘所ニ居事成ズ。去程ニ正保三歲ノ年。彼娘廿九歳ノ時

本秀和尚二見ヘテ云様ハ某楞嚴咒觀音經大悲神咒施
鬼ナト習スミテ能誦ミ申ス也我ハ疑ナキ祖父アガ坊主ノ生
レ替也親ノ屋敷ニ居ルハ心快ニ願ハ和尚ノ御吊ヲ受度ト
望也アガ坊主ヲ知タル者共此娘ヲ見テ形姿聲其儘祖父
ニ似タリト云扱又伴ノ大地モアガ坊主也ト母同道ニ來テ語
ルト本秀和尚直談也鬼角出家ハ大略女ニ生ト云ヘリ尾別
折津ノ正眼寺用益和尚ハ九州ノ人ナリシカ九州ニテ五千石
取侍ノ女子ニ生タリ手ノ内ニ書付持テ出タル由ニテ折津工
尋來ト云ヘリ○尾別各古屋聖德寺良教ト云一向坊主一年
江戸へ下ルトキ途中ニテ脇指ヲ失ヒ伴レタル門前ノ馬方取
タルベシト疑ヒ居タリケルガ死メ三年目ニ彼馬方ノ娘ニ生シ
來ル其證據ニハ臂ノ折目ニ聖德寺良教ト慥ニ筋アリ聖德

寺弟子坊主六条ニ寺持テ居タリケルガ名古屋へ下リ之
ヲ見テ馬方ヨリ乞請テ此娘ヲ上方へ伴テ上也寛永十
五年ノ事也新右衛門ト云人慥ニ語ル也

五僧ノ魂地ト成物ヲ守事付二僧來テ金ヲ守事

取上傳正寺ノ住持江湖頭ヲノ特導儀ヲ助ケタル僧快毒快
應ト云兩僧奥州一見ノ次テ傳正寺へ立倚ケルハ住持珍敷ト
テ様々馳走ケテ打解雜談ニテ云ケルハ此寺金銀米錢心
任テ万事不足ナシ寺中一見セヨト有ケレバ二人ノ僧ノ口リ
ト廻リサテ蔵工入テ見ルハ俵物積重タル上ニ大キナル白蛇
ノタリ居タリ快應竹ヲ以テ是ヲ打殺ストス然ルニ方丈ニ伏タ
ル長老ワツハツト呼テ殺入シケリ寺中ノ僧衆是ハ何事ト
云テ方丈ニ走リ氣付ヲ與ヘ様々氣ヲ付ケルハ長老彼

客僧ヲ見テ。唯今快應我ヲ打殺サレトス。事ノ外癡ミタリ。云テ。急キ客僧ヲ追出スト。兩僧直ニ語也。慶長年中ノ事也。○名古屋大光院護益和尚。四十九院ノ餅ヲ。人ニ喰セズ。柿糍ニ于置テ。客人斗ニ用タリ。或時女客人来ル。和尚大益ト云納所ヲ呼。此餅ヲ芥子餅ニシテ。出セト付付ラレ。一度取出シ亦俵シテ。餅取ニ行テ見ルニ。大十九白餅餅ノ上ニ居タリ。指節冬ノクニ。不思議ニ思納所此由云ハ。和尚行テ見テ。是福也ト云五ハ。則蛇ハ失ケリ。彼住持死去ノ後。賊宝爭取タル弟子共多死ニタリト也。○濃洲大井ノ宿ニ小寺有坊主死テ後。夜ナク来テ燭ニ蹲テ立ケル間々。人此寺ニ居ノラス。或時洞家ノ徧參僧来テ。寺ヲ借所ノ者右ノ次第ヲ語ル。苦ニカフスト云テ。寺ニ住ス。寮ノ如ク夜ニ入坊主来

テ。妙ニ立此僧如何様。執心有ト見テ。颯ノ者ヲ頼ミ。炊ヲ掘テ見バ。金子十五兩程有。則チ此金子ニテ吊ヒケルハ。再ビ来ラス。○相州ニ去坊主死テ後。家ノ棟ニ蛇居ケルヲ殺セドモ。来ル。或人來テ。此蛇ハ坊主ナルベシ。家ノ棟ニ金カアラン見五ヘト云。去バトテ。簞置ヲ分テ見バ。金子五兩合掌ノ組合セニ。深包テ置ケリ。則チ其金ニテ吊ヒケレハ。再ヒ来スト也。此吊ヒニ逢タルハ。即右衛門語也。

六知事ノ僧鬼ニ打ル事。弟子ヲ取殺事

此册江戸永見寺。隣悦ト云納所。夢ノ如ク覺ノ如ク。二鬼尋来テ。責惱ス。切々也。隣悦是ヲ恐レ。近付ノ徧參僧二人ヲ頼ミ。一野ニ卧ケルニ。亦二鬼来テ。鉄棒ニテ散々ニ折擲ス。二僧モ目ヲ醒シケレバ。二鬼荒ケナキ聲ニテ。傍ノ坊主杖ニ當ル

ナト云テ。ヒタ打ニ打程ニ。忽チ腰ノ骨ヲ打折ケリ。隣悦見
驚キテ。貯ヘ置タル金銀ヲ。盡ク住持南宗和尚ニ献シ。遍參
僧二人ヲ仕立テケリ。然レ此二僧モ。ノタバズシテ。頭テ死ケリ。
一人ハ血ヲ吐テ苦痛シ。一人ハ痢病ニ疲極シ。何レモ臨終ニ念ナ
ラス。寛永年中ノ事也。○武州江戸。柴ノ高雲寺。吞悦和尚ノ代
芳金ト云納所。吞芳ト云弟子ヲ持。十二三年徧參シケル時
芳金死ス。菴室諸道具少モ相違ナク。吞芳ニ渡シ玉フ。然レ彼
吞芳。諸道具ヲ賣寺ヲモ開テ置タリ。一周忌ノ比ヨリ。彼芳金
毎夜来テ吞芳ガ頸ヲシメケリ。然レドモ隠シテ經ナド。誦タル
斗リニテ。眞實ノ吊ヒ一度モセザリシ也。兔ヤ角ヤト打過ケル
ニ次第クニ煩ヒ重リ。氣色衰ルニ隨テ。弥芳金吞芳ガ目ニ
見ヘケリ。有特芳金来テ。吞芳クト呼也。吞芳ヤツト答ヘテ。

即死去ス。高雲寺ノ僧達。悵ニ見ル事也。寛永年中ノ事也。

七僧ノ口ヨリ白米ヲ吐事。付板按ニ逢僧ノ事

東三川ニ貴雲寺ト云寺有。其弟子ノ僧。同行五人ニテ。立
山ニ參詣ス。下向ノ時。俄ニ日暮ケル間夕。宿ヲ借ントスルニ村
里ナシ。傍ラニ灯ヒ幽ニ見テ。所有。此處ニ至テ見バ寺也。一人金
剛經ヲ誦居ラレタリ。是ハ立山ニ參リタル者也。宿ヲ借玉ヘト
云老僧則チ安キ事ナリトテ。宿ヲ借玉フ。我ハ去方ニ參ル也。
其方達食ヲ拵ヘ。食玉ヘ米モ味噌モ與ニアリトテ。老僧ハ出ラ
レタリ。去ハ食ヲ焼トテ。客僧抵截ヘ米トリニ行ケレバ。僧一人
倒ニツルシ。下ニ新シキ桶ヲステテ有。彼坊主ノ口ヨリ。白米ガラ
クト出ルナリ。不思議ニ思能見バ。我師近ノ坊主也。此僧大ニ
驚キ。ヤレ地獄也ト云テ。カケ出ケレバ。本ノ如ク明ルク成タリ。

其引此僧出家ト成リテ。信施ヲキルハ怖敷事也トテ。還俗
シ名古屋ニテ。足輕ニ出テ今ニ居ル也。元和年中ノ事也。本坊
和尚彼僧ニ相マテ也。○何某相州小田原御番ノ時。金田ノ
近所ニ正順ト云真言坊主有ケルヲ。齋日ニ參ル。様ニト約束
アリ。然ルニ此坊主来ス。二日過テ来テ云御齋日ニ參サル
存外ノ儀在テ苦違ヘ申也。其子細ハ我等近所ノ村ニ小巷ア
リ。此坊主金少シ持タルト。人モ沙汰セシ。則ニ彼坊主頓テ死スル
ニ金一步テラテハナシ。一周忌ノ時分彼坊主ノ且那。庄屋餘取上
往時彼坊主疲衰テ。ヨロクト歩ミ来ル。驚キ見廻ニ長一丈
程ノ大男板ヲ持来テ。坊主ヲ挾テ押掛責ケリ。庄屋肝ヲ滑
面ヲ伏テ居タルガ。心元ナク思面ヲ上テ見ハ。大男ハ無坊主残
テ歩来ル。逃度思ヘトモ是非ナク居處ニ坊主来ル庄屋附テ。

坊主ハ何事ニ只今ノ様ナル。責ニハ逢テゾト問ハ。坊主答云
我死テ後吊者ナキ故ニ。日夜ニ五六度ノ責ヲ受ル也。我金子
少シ持タル。且那衆ノ内ニ五兩借亦柿ノ木ノ下ニ壺ニ入蛇ビ
貝ヲ蓋ニテ置也。願ハ是ニテ吊テ玉ヘカシ。若且那衆借ヌト諱
ハ。證據ヲ見スベシト云テ。深ク頼ミケル。庄屋心得タルト肯ヘハ。
坊主消去ヌ。扱庄屋飯テ且那衆ヲ呼。此由角ト云ケル。金子
借用ノ者急キ出ケル間。今朝逆經ヲ誦吊ヒ申ス故參也
ト送ニ語由證據正シキ事也
八無道心ノ僧亡者ニ責ラル事。付破戒ノ坊主雷ニ逢事
武州江戸牛込妙行院ト云日蓮宗ノ坊主アリ。無道心第一
ニテ。亡者ヲ吊事疎也ケルガ。慶安四年ノ春。病ヲ受タ
リ。八月十二日ヨリ強ク煩死テ八息ヲ吹返シク苦痛ス。云々

者數多来リ責ケル間此苦除玉ヘト叫悲ム一限ナシ即九月九日中々怖布有様三ノ死スル也○濃洲養老が龍ノ麓ニ露村ト云在所アリ此所三本慶寺ト云一向坊主有幼少ニシテ父ニ離シ無智ヲ人ヲ吊フ數多也刺へ徒者ニテ殺生ヲ好ム人々坊主ノ殺生勿体ナシト云へハ我等か宗門ニハ殺生が慈悲也捨ノ畜類ハ佛射ヲ受タル人間ニ喰レテ助ト願斗也ト云テ用ス十九歳ニテ猶殺生ス去程ニ寛永廿年十月十三日ノ夜五ツ比ニ彼ノ寺工且那三人家内ノ男女皆燒火ヲシテ居ケルニ家ノ破風ニリクト鳴ケシハ即千家ノ内光渡リ大入道二人来テ坊主ノ兩脇ニ坐ス人皆肝ヲ消シ逃退ク即彼大入道坊主ノ兩手ヲ取引立破風ヨリ出テ町ノ上ヲ三度本慶寺坊主徒

ラ者ヲ伴テ行ゾ飛ビ娑婆工返ス可ラズト高聲ニ喚リ行ナリ

九怨灵ト成僧之事

江州土山ヨリ半里隔テ一ノ瀬ト云在所有正保ノ比ヨリ八十年以前丑ノ年百姓ノ境論シケルラ徳林庵受泉ト云僧扱テ無事ニ澄シケリ飛彈守聞玉テ彼僧ヲ呼出し能扱タトテ馳走ヲ仰付酒ヲ勸メラル黍ケナシト悦ビテヒタ吞ニ吞ホドニ酔伏テ終ニ死ケリ故ニ寺モ断屋敷モ自ト成テ數年スギケレバ在家ニ作テ又八郎ト云者居タリ此又八郎土山へ行酒ニ酔テ飯ルニ路ニテ粟々トノ煩付氣違ノ様ニ為受泉坊ト名乗テ戲言ヲ云ケル家ノ棟ニ大蛇来テ居タリ子此蛇ヲ殺シ串ニ指テ捨ケレ用明日ハ

又同躰ナル地居タリ。又八郎曰。十悲ニテ終ニ死ス。即子
ヲ又八郎ト云ケリ。是モ土山へ行酒ニ酔。飯ニ父ノ如ク煩付
家ニ飯レハ外ヨリ禿来ル。之ヲ敵キ出セバ。二三間斗ナル
地ニ成テ進行度々此ゴトクシケルガ。終ニ口走受泉ト名乗
テ死ケリ。其子ヲ清三郎ト云。慶安二年外月初ニ。土山ヨリ
酒ニ酔テ飯ルトテ。父ノ如クニ煩付。腹中燃ル様ニテ。咽乾キ
水ヲ吞テ限ナシ。刺へ眼。暗シ腰抜テ。重苦悲嘆スル間。山伏
ヲ頼ミ色々祈禱スレヒ叶ズ。後ニ八ヶ泉坊直ニ躰ヲ現ノ家
ノ内へ来ル。追出スニ窓ヨリ出テ行。ラ見バ大地也。追テ行
ハ卯塔へ行テ何モナシ。為方ナクシテ丑ノ五月七日ニ。本坊
和尚ヲ頼ム。和尚即吊玉ハ早七日ノ晚ヨリ咽ノ乾キ止
ケリ。扱兩日吊テ血脉ヲ誣塔婆ヲ書。休心ト云坊主ヲ遣シ

徳林庵ニ塔婆ヲ立供養シ。經咒ヲ誦ケレバ。其中ニ目モ明
腰モ立テ。スツキト本復ス。有難シ黍ト悦リ恨リナシ。○大
閣ノ御時南条中書伯耆半國ヲ知行ノ。泰久寺ノ長老ヲ
案内者ニ頼ミ。知行ノ境ヲ引時。惡敷引玉ニ付テ。山田左助
海老名源助ニ。此長老ヲ張付ニ掛ヨト云付テ。其身ハ上洛
ス。源助ハ是ヲ痛リ。少シナリトモ延度思ヘヒ。左助是ヲ惡
ミ。急テ掛タリ。留メラ指タル所ニ。上方ヨリ飛脚馳来テ。長
老ノ命助ケヨト云死テ後ナレバ是非ナシ。長老頓テ左助娘
ニ付テ口走リ。左助一門三年ノ中ニ。惡病ヲ授テ残ズ殺ヘシ。
此子ハ暫シ宿ヲ借タル恩賞ニ助ケル也。中書ハ頓テ死テ。大
地獄ニ墮ベシ。吊無益也。源助子孫ハ未繁昌ニ。亦口走
テ治リケリ。扱言タルニ違ス左助ハ癩病ヲ受糞ヲ食テ死ス。

子共残ス死果タリ。中書モ悪病ヲ受絶果タリ其子モ中書
ト云ケルガ。大坂陳ノ時裏反タル一頭陳場ニハリツケルカ
坊主ノハリツケ子ニ報タリト知人イヘリ。大坂高大寺上リ
屋敷ニ成テ賣ケル時。江州ミトウ村救世寺ト云一向坊主
買取テ堂ニ作リケリ。然ルニ天井ヨリ。阿弥佛ノ前へ倒リ
ラクトサカル者アリ。神子ヲ呼口ニ寄ケレバ。口ニ寄ス。七人
迨神子ヲ呼ケレバ。七人目ノ神子ニ取付テ。我ハ大坂高大寺
也。何トシテモ除ベカラス。但シ午部ノ經ヲ誦ハ除ベシ。左無ハ
此家ヲ大坂へ返シテ。本ノ屋敷ニ作ヘト口走リケリ。其後ハ
降りタル者。蛇トナリケルヲ。一向坊主ノ子。截テ捨ケレバ。結
句本ヨリ大ニ成テ来ル。彼住持終ニ寺ヲ捨テ。黒谷へ行テ
居ス。故ニ明家ト成テ。兩年有ケリ。大坂ニテ聞也。

十座頭ノ金ヲ盜僧盲ト成事 付死人ヲ争僧機違事

越後ノ府ニ五智ノ如来堂有奥洲ヨリ座頭一人官ノ為ニ
上洛スル時。如来堂ニ通夜シ。如来ヲ拜奉リ。琵琶箱ヲ開官
金入タル袋ヲ先膝ノ下ニ置琵琶ヲ取出シテ。平家ヲ三句
如何ニモ静ニ語斯ケル處ニ。同國林泉寺ノ僧江湖頭立願ノ
為ニ。七日通夜シテ居ケルガ。是ヲ見悦御利賞泰ト念シ悦
テ。竹ニテ鉤ヲ作。金袋ヲ引寄テ取。座頭夢ニモ知ズ。平家ヲ
語納テ。膝ノ下ヲ搜ルニ。金袋ナシ。ハツタトカラ落シ。アキレハ
テタリ。暫有テ思様。是ハ如来ノ御方便ナルベシ。我官ニ縁無
故也。是ヨリ亡目乞食ト成テ。諸國ヲ行脚シ。菩提ヲ願ト
思定テ。琵琶箱ヲ隔子ニ括付。如来工献テ飯ケル。木下ノ橋
ノ末中ニテ。人数多打伴テ来ニ發多ト行逢ケル時。兩眼忽

明ケリ。兼思寄ガル事ナシバ。途方ナク是ハくト呼ハリ。始生
タル心地シテ。悦コト限ナシ。不思議ニ思爰ハ何方ゾト問ハ。故
下ノ橋ナリト答。初如来堂ハ何方ゾト問ハ。我々如来エ参
者也トテ。同道シケリ。初如来堂エ参。如来ヲ拜奉立故ラ
シトスル處ニ房主一人俄ニ亡目ト成テ悲ニ居ケリ。故ラ問エ
ハ。座頭ノ官錢ヲ盗テ。加藤ニ罷成ト云。人々是ヲ聞テ。惡
因報事忽也ト。大ニ怖ケリ其證擧ニ。琵琶箱今ニ如来堂ニ掛
テ有ト海岸和尚物語也。○東三河田村ト云所ニ。長慶寺ト
云寺有其寺ノ檀那某ト云者。寛永十八年ニ死ス。内々大洞エ
親出入シケル間。大洞ニテ吊シトス。時ニ長慶寺ノ長老嘆テ。先
祖ヨリ代々當寺ノ檀那ナリ。吊ワスベカラズトテ。村中ノ檀那
ヲ頼棒打ノ用意ナリ。此由大洞エ聞エ六箇敷コトナリトテ。住

持引導ニ出絡ズ。サシク扱テヤウクスミケリ。然ニ次年ノ
春長慶寺ノ長老機連テ在ケリ。折ラ結テ置テ二人來ハ。糞ヲ
ツカミ打カケ休シテ。終ニ在ヒ死ケリ。淺間敷次第也

士悪見ニ落タル僧自他ヲ損ズル事

甲州ニ。関悦ト云洞家ノ長老有伊勢ト近江ノ堺ナル君ガ
獄ト云處ニ坐禪シテ。撲々異相奇特ヲ見。是ヲ悟ト思テ。他人
ヲ誹謗シテ。向上ニ為テ。甲州ニ居ケルガ。頓テ氣違在死ケリ。
廣岩長老旧友ニテ。坐禪供達ナル故。委知テ語給也。正保元
年ノ事也。○尾州名古屋ヒサヤ町庄右衛門母ニ。或長老勸
テ云。汝我處エ來テ。卅日坐禪セハ。悟ヲ開クベシト。母時行テ
坐禪スルニ。卅日經テ三尊ノ來迎有テ。光耀ケレハ。覺コト限
リナシ。然トモ萬ノ態盡ノ念慮前ノコトシ。次ノ日何トヤラシ

口味ナクシテ。味ヲ好ム氣有。前生猶ニテ有ツルカト思ハ。其
夜猶來テ目ノ前ニ有。其後毎夜來迎有。本秀和尚聞テ。皆
以妄想ナリ。氣違煩ト成ベシト教化シテ。右ノ氣滅リ坐禪
ヲ止ケル。來迎モヤミ。無為ニナリタリ。○濃州八屋ト云。鬼ニ
快祝ト云。關山沁ノ長老有。多ク人ニ憐ヲ授。神木ヲ切佛
像ヲ破却シテ。佛ハ我心ニ有。外ニ佛無ト勸ケル間。在處ノ者
共此長老ヲ貴ヒテ。放逸無慚也。彼長老報盡テ。頓テ死去ス。
龕ヲ身出サントスル處ニ。俄ニ天曇雷鳴火車來テ。長老ヲ獲
行此彼ニ死骸ヲ捨タリ。扱彼法ヲ聞タル者共。頓テ痠痛ヲ
煩苦痛ノ大形死タリ。其後滅却シタル堂社ヲ建。切折タル神木
ヲ植テヨリ。在處納ニルト也。正保年中ノ事也。其比八屋悟ト
云傳タリ

十二愚癡ノ念佛者錯種々ノ相ヲ見事

相州佐川ヨリ。一里上ノ在處ニ。去姥常ニ念佛者ニテ。芋ヲ
紡一端嫁ニ織セ。死タル時ノ著物ニセントテ。藻シケルガ。白ニ
テ擣ケル。水濁リ次第クニ黒クナル也。是ヲシボリテ見バ。
佛身淺々ト段々ニ顯タリ。皆々拜タル人ノ物語也。小田原
ノ年寄衆モ取倚見シタル也。寛永十八年ノ事也。○江戸或
町人ノ女房念佛者也。來迎ヲ願ケル。切々來迎ニテ。後ニ
ハ手ノ上ニ來迎アリ。其後ニ是ヲ吞ケリ。又シク吞程ニ氣
衰工煩也。去禪師ニ逢テ。念佛ヲ休藥ヲ吞テ治スル也。○江
戸三ノ青木何某母。勝タル念佛者也。常ニ珠數ヲクリケル故
指ニタコアタリ。コブニ成。イヨク高成テ後。佛体ニ成テ落ケ
リ。○尾州名古屋ニ。或女年盛ナル時。大坂ニ居テ光念佛

ヲ申セシガ。同行八千程有テ。其身奇特多シ。同行ノ中ノ
善悪ヲ陰ニテ委知念佛ノ回向モ其時々ニ陰ニテ知レリ。後
ニ聞合スルニ。少モ違又也。亦人ノ生死ヲモ慥ニ知也。後ニ禪ノ
知識ニ呵セラレテ。宗旨ヲ替ケレバ。奇特ヲ失スル也。我慥ニ
知也。

十三第二念ヲ起僧病者苦ヲ授事

寛永十七年ニ。濃州加納之城。ニノ丸殿ノ内ニ。ライキヤト云
女ノ父。大病ヲ受既ニ末後ニ及ベリ。ライキヤ餘ノ悲サニ。関
ノ龍泰寺ノ全石ト云僧。全父院ニ来テ幸也。トテ。末後ノ勸
ヲ轉ケリ。全石病人ニ向テ經ヲ誦。坐禪シケレバ。病人云。扱
々此間胸中色々穢多シテ。遣方ナキ苦痛唯今俄ニ胸察
ク為テ。煩少モ無トテ悦ケリ。然ニ三日程過テ。全石思ハ全

父院ノ頓寫ニ逢ト仰有シガ。往ベキヤラシ亦止ル可ヤラント。
思案出来タリ。其時彼病人ヤレク亦苦敷成タリ。唯今迄
心快有シガ。又本ノ如悲サヨト苦シム。此由全石聞テ。扱ハ我胸
ノ思案ノ難キ念ノ故カト強ク坐禪シ。心ヲ如何ニモ清メテ。
經死ヲ誦シケレバ。彼病人胸晴々トシテ。快氣ニ成タリ。此
時全石大事ノコト也ト思。殊坐禪シケレバ。二日心能為テ悦
往生ヲ遂タリト。鉄心和尚ノ物語也。

十四破戒ノ坊主死テ鯨ト成事付姥猫ト成事

羽州最上川ノスノ。坂田エ落其磯邊ニ。長十二三間アル。點キ
鯨寄タリ。昔ニ安隆寺ト云大文字アリ。又腹中ニ人ノ兩足ニ
鞋著テアリ。万坊主ノ道具アリ。人々僉議シテ。何國ニ加様
ノ寺有ト尋ケル。坂田ニ安隆寺ト云一向寺アリ。此坊主

大欲人ニ勝シ。放逸無慚ナリシガ。三年以前。五十餘ニテ。越前ノ鶴河ヘ。船リヌルトテ。破船シテ人数多死スト也。此鯨背ニ銘アル上ハ疑無安隆寺坊主也。故ニ此鯨ヲ食者十ク。油ヲモ取ス打捨ル也。最上坂田ノ僧俗。憐ニ知タル事也。尾州春日部郡北嶋村ニ八十餘ノ地有。正保元年二月死ス。七日モ過サルニ赤キ大猫ニ成テ。與ノ釋儀ノ上ニ居タリ。祖母ノ彦知少ナルガ。釋ヲ取ニ行テ。且ハ儀ノ上ニ獸有驚テ。此由親ニ云フ。親行テ提上出シ。敲トモ他所へ行ズ。其夜夢ニ告テ。我ハ此比死タル姥也。三年飼玉ト云。不審シテ三所ニテ占ケレバ。正ク夢ニ違ハル也。

十五死後犬ト成僧ノ事付犬ト成男女ノ事
尾州名古屋膳徳寺順的和尚ノ弟マニ傳可ト云僧有関

東三テ十年程備參ス也。後三三州牛窪ト云村ニ寺ヲ持居タリ。順的和尚ノ師近牛窪ノ花居寺ト云寺ニ居玉。去年ノ春師近見舞ニ來給エバ。傳可順的和尚工向テ。我等參納所仕ベシ。秋中ニ名古屋工參可ト約束ス。然ニ傳可夏中ニ煩テ死ス。或夜順的和尚ノ夢ニ傳可來テ云ハ。秋中參ヘト御約束仕。夏中相果忽チ犬ニ生申ス也。何國ニモ縁ナク居處モナキ間。是ノ庭ニヲキ養下サレヨト告ル也。和尚折角待ケルニ。扱死ニ成タルガ。不便ナリ置ベシト言給ト。夢ハ醒ケリ。明朝大衆ニ不思議ノ夢ヲ見タリト語リ玉。亦次ノ夜夢ニ右ノ如來テ云。和尚扱々トヒヨト。宣テ夢サメケリ。明朝乞食犬ノ子ヲ一疋連來ヨヒ犬ノ子進セント云。僧達見テ犬ヲ入ス。持去ト云。和尚聞玉。夫ワ夢ニ見タル傳可ト云。我弟子也。

ト反取庫ニ置食ヲ喰セ和尚茶ノ間ヨリ傳可くと喫
給エハ彼犬ニ口くト走り和尚ノ側工往也犬ノ毛ハウス赤
白鼻ノ先白レト也初十三年目ニ膳徳寺ニ江湖アリ大衆
放參ノ陀羅尼ヲ誦玉エハ彼犬モ縁近上リワシくと經ヲ誦
シナリ僧達ヲ見テハ只モノ渡ヲ流セト也江湖ハ寛永五年
ノ夏也其江湖ニ本秀和尚居直ニ見タリト語玉也○寛永
ノ始比尾州熱田白鳥ノ住持慶春和尚濱松普濟寺ノ住
當リ入院一兩日過テ町ヨリウス黒ノヘカラ一足連來ル長
老見テ珠敷犬ナリ上テ留置飼玉退院ノ比彼犬ヲ入ヌト云
テ本ノ宿卫飯レ玉エハ其夜長老ノ夢ニ彼犬來我ハ其方ノ
親也連テ行飼ヘト云明日僧衆ニ向テサテく犬ト云テモ
コスヒ物カナ我親チヤ程ニ連テ行ト夢ニ告ル也トゾトケゴ

トニ云玉然ニ次ノ夜夢ニ又犬來テ我實ニ其方ノ親也若
連テ行メサレズバ命ヲ取ベレト云時ニ和尚夢醒驚彼犬
ヲ喫ヨセ連テ熱田工飯給白鳥ニ此犬地ヲ踏ス坐布ニ斗
居テ食ヲ長老ト相伴ニ食夜ハ和尚ノ闍ニ卧寛永十年ノ
比江湖ヲ置玉ニ彼犬和尚ト同ク一番座ニ飯臺ニ付也大
衆見テ眞扱々畜生ト一ツニ飯臺ニ付コトアラシヤ是ヲ休玉
ワズニハ江湖ヲ分散セント云和尚闍大衆ニ向テ此犬ワ我カ親
也者玉エト他言ニテ大衆堪忍ス彼犬江湖ノ次ノ年死ス其ノ
時龕幡天蓋ヲ持へ念比ニ送リ三日ノ中懺法ヲ誦吊給也本
秀和尚慥ニ知テ語玉也○武州江戸糶町常泉寺工他野ヨリ
犬來テ子ヲ三ツ産一ツノ子ヲ悪ニテ乳ヲ飲セス或時住持
ノ夢ニ犬告テ我ワ前生遊女也後男ヲ持二人ノ子ヲ産繼

子乃凡有。今産三ノ子一ツ継子也。彼継子ノ父現在ニ有ケル。今日来リ此犬ヲ乞ヘシ早速ニ渡シテ云ト云明日夢ノ如ク外ヨリ男一人来リ寺中ヲ一見シテ犬ノ子ヲ見出シ一ツ所望ス住持心得安事ト云エハ乳ヲ飲セサル疲犬ヲ所望シテ行也。寛永十五年ノ事也。

十六死後馬ト成人ノ事 牛ト成人ノ事

江州大津車路町ニ九兵衛ト云者月毛馬三寸程ナルヲ二三年持テ腰ヲ折セ直段下リ草津ノ清兵衛ト云者ニ賣也。寛永十六年三月ノ比人二人来テ此馬ヲ尋ヌ何事ゾト問ハ加様ノ馬草津ニ有ト聞ドモ尋相ズ是ニ久敷有由兼ワル草津ノ馬主へ案内者ヲ頼度故尋来ト云去ハトテ案内ヲ添ケル草津ノ清兵衛工行馬ヲ一見仕下所

望ス馬主三十日以前ニ来タリ賣馬ミテ人無ト云色々理ヲ云所望シケレバ馬主人養馬ナレバ金靴ヲハメテ置引出ス事六ヶ敷間其儘見玉エト云彼二人苦シカラスト云テ羈ヲ放シ引出スニ馬泪ヲ流シ相シタル有様也二人ノ者ドモ憐ミタル氣色ニテ馬ヲ引回シロヲ明テ年ヲ見トスルニ白ロヲ明テ牙ヲ見セケリ馬主加様二人ニ隨事始ナリト云去程ニ二人ノ者此馬ヲ所望仕度ト云馬主叶ヒキト云ケルヲ種々言シ盡無理ニ所望ノ本ノ買直ノ如ク金二兩ニ買取テ行也馬主跡ニテ餘リ不思議ナル有様也子細ヲ問ハヤト思半里程行ケルヲ追掛テ子細ヲ問其時二人ノ者耻シナカス申ベシ是ヲ我等親也年忌ヲ吊ベシト心當仕ル処ニ兄弟ノ者ノ夢ニ父告テ我今馬ト成テ草津ニ有強馬トテ重

荷^カ目^メ影^{カゲ}セテ。隙^{マタ}ナク江戸上下ス。此^{コノ}苦^ク患^ヰ限^リリ無^シテ。人^{ヒト}ヲ食^ク
踏^フケレバ。曲^{カマ}セ馬^{ウマ}トテ金^{カネ}靴^{ツツ}ヲ父^{チチ}テ。弥^{ヨシ}再^ヒ々^々上下^{ウヘノヘ}サスル間^{マヒ}苦^ク患^ヰ
耐^タカタシ。願^{ネガ}ハ我^{ワガ}ヲ買^カ取^リテ給^{タマ}ヘカシ。今^{イマ}ハ草^{クサ}津^ツニ有^リト。有^リ々^々ト
兄^{ケイ}弟^{テイ}共^ニ夢^{ユメ}見^ミタル故^ユ兄^{ケイ}ノ弟^{テイ}ノ趣^{オモ}ヘ行^イ弟^{テイ}ノ兄^{ケイ}ノ趣^{オモ}行^イ途^チ中^{チュウ}
三^{サン}ノ行^イ合^カ互^ニ語^カ二^ニ同^ニ夢^{ユメ}也^{ナリ}。大^{オホ}津^ツノ町^{チヨウ}馬^{ウマ}主^{ヌシ}ノ名^ナ馬^{ウマ}ノ毛^ケ年^{トシ}ノ比^ヒ
迄^{マデ}慥^{シカ}ニ見^ミヨリ此^{コノ}ノ如^{コト}ク也^{ナリ}ト云^イ。其^{ソノ}時^{トキ}草^{クサ}津^ツノ馬^{ウマ}主^{ヌシ}渡^{ワタ}リ流^ナレ。此^{コノ}
金^{カネ}皆^{ナニ}返^{マゼ}度^{トシ}思^{オモ}共^ニ御^{ミコト}邊^ヘ達^{タツ}志^シノ品^{シヨウ}ナレバトテ。二^ニ步^フ返^{マゼ}ケリ。二^ニ人^ニ是^{コノ}ハ
如何^{イカニ}。結^{ムス}句^ク本^ホノ直^ナヨリ。高^{タカ}買^カベキ杜^ツ本^ホ意^イナル。平^{ヒラ}更^シ御^{ミコト}取^リ有^リ
ト言^イトモ取^リズ。暇^{ヒマ}去^クレテ敏^シ也^{ナリ}。二^ニ人^ニノ者^{モノ}ハ尾^ビ州^{シュウ}中^{チュウ}嶋^{シマ}郡^{グン}ノ内^{ウチ}羽^ハ根^ネ
ト云^イ。趣^{オモ}ノ者^{モノ}也^{ナリ}。佐^サ和^ワ山^{サン}大^{オホ}雲^{ウン}寺^ジ衆^{シュウ}寮^{リョウ}普^フ請^{シヨウ}ニ。大^{オホ}津^ツノ車^{クルマ}地^チニ居^イタ
ル。大^{オホ}工^ク理^リ右^{ミドリ}衛^ヱ門^{モン}ト云^イ者^{モノ}来^キテ。委^{ウチ}語^ゴ也^{ナリ}。扱^{サツ}二^ニ人^ニノ者^{モノ}トモ数^{スウ}多^タノ
僧^{ソウ}ヲ供^ク養^{ヤウ}レテ吊^{ツル}ヒケレバ馬^{ウマ}頓^トテ死^シ夫^ツヨリ二^ニ人^ニノ者^{モノ}京^{キョウ}へ上^{ノボ}リ。

發^{ハツ}心^{シン}レテ馬^{ウマ}ノ菩^ボ提^{テイ}ヲトクハルト也^{ナリ}。其^{ソノ}比^ヒ京^{キョウ}中^{チュウ}ニ馬^{ウマ}念^{ネン}佛^{ブツ}ト云^イト
有^リト。亦^{モト}大^{オホ}坂^{サカ}ニテ久^{キウ}譽^ヨ能^ネ知^チテ語^ゴレタリ。○江^{カウ}州^{シュウ}越^エ川^{ケン}ノ。問^{モン}屋^ヤ
弥^{ヨシ}右^{ミドリ}衛^ヱ門^{モン}ト云^イ者^{モノ}。愚^グ癡^チ怪^ケ貪^{コン}無^ム類^{レイ}者^{モノ}ナルガ。死^シレテ三^{サン}年^{ネン}目^メ正^{シヨウ}
保^ホ四^シ年^{ネン}亥^{ケイ}ノ年^{ネン}。栗^リ澤^{タク}次^ジ郎^{ラウ}右^{ミドリ}衛^ヱ門^{モン}ト云^イ者^{モノ}ノ。馬^{ウマ}ノ子^コニ産^{ウマ}レ出^デル
也^{ナリ}。栗^リ毛^{モウ}ニ白^{シロ}キ毛^{モウ}ノ文字^{モンジ}細^{ホソ}クト。越^エ川^{ケン}弥^{ヨシ}右^{ミドリ}衛^ヱ門^{モン}ト有^リ護^ゴ谷^{コウ}和^ワ
尚^{シヨウ}行^{キョウ}テ見^ミ玉^{タマ}ニ文^{モン}字^ジ明^{メイ}カナラズ。能^ネ々^々見^ミバ慥^{シカ}也^{ナリ}ト語^ゴ玉^{タマ}ヲナリ
○東^{トウ}三^{サン}河^カ一^{イツ}ノ官^{カン}ノ神^{カミ}主^{ヌシ}。二^ニ郎^{ラウ}太^{タイ}夫^フ内^{ノウ}ノ。老^{ラウ}衛^ヱ門^{モン}四^シ郎^{ラウ}ト云^イ者^{モノ}。
死^シレテ牛^{ウシ}ニ成^{ナリ}テ步^フ行^キケリ。皆^{ナニ}人^ニ牛^{ウシ}鬼^キト云^イテ是^{コノ}ヲ怖^{オソ}ル左^サ衛^ヱ
門^{モン}四^シ郎^{ラウ}カ家^ケノ近^{チカ}趣^{オモ}。二^ニ三^{サン}間^{カン}述^{シツ}テ明^{メイ}屋^ヤニ成^{ナリ}タリ。江^{カウ}州^{シュウ}東^{トウ}願^{ガン}寺^ジ
ト云^イ。趣^{オモ}ノ。清^{セイ}寶^{ホウ}ト云^イ坊^{ポウ}主^{ヌシ}吊^{ツル}ケレドモ叶^エワズ。亦^{モト}長^{チヨウ}山^{サン}ノ正^{シヨウ}眼^{ガン}
院^{イン}長^{チヨウ}老^{ラウ}ヲ頼^{ラン}吊^{ツル}ケレドモ合^カハラス。其^{ソノ}後^{ノチ}土^{ツチ}井^イ川^{ケン}ノ明^{メイ}嚴^{エン}寺^ジ牛^{ウシ}
雪^{ユキ}和^ワ尚^{シヨウ}ヲ頼^{ラン}濟^ジケリ。寛^{カン}永^{エイ}五^ゴ年^{ネン}ノ事^{コト}也^{ナリ}。

中七人ノ壘死人ヲ喰事 付精進寺工来事

山城ヨリ丹波へ行路ノ履掛一云野ニ太郎兵衛ト云者京四
条ノ多葉粉刻喜右衛門ト云者近付ニ恒々出入ス或時
履掛ヨリ京へ行トテ桂川ヲ渡レハ頻テ廟庭有死人ヲ捨
置タリ見ハ喜右衛門日比癩病氣ナルカ彼死人ヲ小刀ニテ
切テ喰居タリ扱不思議也ト思行ケレハ案ノ外喜右衛門
ワ家ニ伏テ居ル起テ對面スレバ喜右衛門不思議ナル夢ヲ
見タリト云何事ト問ハ桂川ノ渡ニテ死人ヲ喰テ口ノ
醒事限無ト云太郎兵衛其ニテ有ノ儘ニ語ケレハ喜右衛
門聞テ驚洩間敷ト哉ト思髮ヲ剃家ヲ捨發心シテ後
癩病モ大形能成テ乞食シケリ彼太郎兵衛モ道心ヲ發
慈悲ヲ專トシテ不断念佛セト也太郎兵衛直ニ語ヲ聞

テ野尻万助ト云人一心ト云禪門ニ為テ送ニ語ヲ寛求十

八年ノ霜月ニ聞也○賀州ノ籠奉行五郎左衛門ト云者

後生願ニテ毎月親ノ忌日ニ寺工參也或時融山院へ来テ

某ニ煩故御寺工モ參スト云テ茶ノ間ニ茶二三服吞テ飯

ル明日納所行テ御煩ヲ存セヌ故見舞申サヌ無沙汰也

扱昨日ハ能御出ソロト云ハ妻子云ケルハ五郎左衛門ハ以テ

外ニ煩テ立居モ叶ズ結句昨日今日ワ取分煩苦キ故寺參

モ成ズ無念也ト申サレト語也○尾州名古屋相見寺ノ小

性ヲ去ル御方工召仕レケルカ科有テ切腹ス彼小性寺工来

リ縁端ニ手ヲ掛テ善提ヲ資給下云中ニ消失タリ其時

刻ヲ勘ユレバ切腹シタルヨリ少前方也關山和尚ノ代也

十人ノ魂地ト成夫ヲ守ル事 付餅點ヲ守事

江州大津加賀藏ノ前ノ銀治與兵衛加賀ノ城焼タル時銀
作ニ行ケル處ニ蛇三度來テ與兵衛ノ守居ル處ヲ何ニ無
焼銀ヲ蛇ノ頭ニ當ケレバ蛇去其時節大津ニテ銀治ノ女
房ワツト云何事ゾト問ハハ何者ラン額ニ焼鉄ヲ當タリト
云額ノ焼迹後迄有要津和尚此ヲ見給ニ懺悔シテ語也
慶安元年ノ比六十餘也○濃州東郡ナレト云村長井圓齊
家ニテ鮎ヲ焼ニ蛇來テ油ヲ咥ル火筋ヲ焼テ頭ニ當ケレバ
庭ニテ物擣女ノ額焼タリ寺西權兵衛圓齊口ヨリ聞タリ
ト語也○上州前橋太郎左衛門處ニテ内近ト云人餅ヲ炙
ル處エ小蛇來テ是ヲ咥ル内近持タル火筋ニテ蛇ノ頭ヲ擣
ケレバ下女庭ニテ物擣テ居ナカラアツト呼ブ何事ゾト問
ハハ額ニ焼鉄ヲ當給ト云是ヲ見ニ真ニ焼鉄ノ迹付タリ元和

年中ノ事也彼太郎左衛門語ヲ憶ニ聞也

十九五輪ノ間ニ蛇有事

尾州万松寺ノ末寺福壽院ノ且那大谷八兵衛ト云人死
ス五輪ヲ立第三年ノ時此五輪ノ臺ヒクニ切直サントテ五
輪ヲ取放シテ見バ五輪ノ間ニ白蛇平ク成テ居タリ其時ノ
奉行八兵衛内ノ佐右衛門是ヲ見テ不思議ニ思ヒ五輪ノ
切合ヲ見ニ如何ニモ能切合セタリ穴モ四寸程深シホゾモ口
寸程有彼蛇平ク成テ有シカ俄ニ大ナリテ怖布ク見中ニ
穴一盃ニ成タリ此由子息ノ八兵衛ニ告ケレバ知音ニ修行
者有トテ此人ニ語リケレバ此人目出度事也神ニ成給ト云
子息悦酒杯持來福壽院ニテ祝ケリ其後本秀和尚名古
屋江僧給ニ子息此由ヲ語ル和尚聞テ是能事ニ非ス蓋

遊工落夕リト云給^ス。諸人大ニ驚^クト也。見出^シタルワ寛
永六年三月十八日也。其石塔今ニ彼寺ニ有^ト也。○武熊江
戸。吉祥寺ノ下。溜池大堤ノキワニ。浄土寺有^ル水戸。護御屋
敷ニ成^ル池ヲ埋給^ス時。此浄土寺ノ卵塔土取場ニ成^ル此特^ニ一ノ
五輪ノ中ニ白蛇ニ萌^ルカラミ合^テ有^ル見中ニ大ニナリ一尺七寸
程アリ。是ヲ放^シケレバ。三度迄カラミ合^テ去^リケリ。役ノ者トモ
皆是^ニヲ見^ル時。住持此^ニヲ蛇ヲ取^ル水船ニ入^リ置^テ。人々ニ見^セ
今ニ生^テ居^{タリ}トテ悦^{ケリ}。此住持吊^テ畜生ニナ^リ。利口スル
事扱^ク浅間敷事ナリト。人ニ云^レテ耻^ラカキケリ。其^ニ者ノ
娘七八歳ニ成^{ケル}ガ。来^リ見^テ彼^ニツノ蛇ヲ持^テ飯^ル也。其
云^者ワ前田何某ト云^人也。霜月十三日ニ熱病ヲ煩^死ス。女
房ワ六年後霜月十三日ニ死^ス也。

丸愛執深僧蛇ト成事

下総國結城ノ高顯寺ニ。恩貞ト云^若僧有^本國ワ尾洲折津
義恩長老ノ弟子也。九州ヨリ下^ル周慶ト云^僧館林善長寺
ニ居^ス此僧高顯寺ノ江湖エ来^テ。恩貞ニ戀慕^シテ。煩^ト
成善長寺ニ飯^テ弥頼終ニ卧^居タリ。恩貞古キアワセラ。周
慶ニ出^シケレバ。是ヲ引^キサキク喰^盡シ。次第^ニ煩^重ナリ。
終ニ死期ニ究^ル。然^トモ死^ニ兼^テ苦患カギ^リ無^善長寺泉
牛長老恩貞指南坊主エ。右ノ子細ノ具ニ云^遣ノ。恩貞ヲ呼^ビ
寄^テ周慶ニ引^合ケレバ。目ヲ見^出シテ手ヲ取^リ悦^{ケル}ガ。則^チ
死^ス。其後恩貞伏^タル。フト^ニ下^ニ何ヤ^シ動^{ケル}ヲ。振^出シ
見^レバ白蛇也。六七度殺^シテ。串^ニ指^テ捨^ケレドモ終^ニ絶^ス。
然^間周東ニ居^事叶^フス^シテ。尾張エ飯^國ニケ^レドモ彼^僧

面影身ニ深怖毛立テ。煩ニ成次第くニヨワリ。終ニ死ス。其時迄フトシノ下ニ白蛇有。慳ニ諸人知タル事也。○關東ニテ守闇ト云僧若僧ニ戀慕シテ。其念蛇ト成テ。若僧ノ居タル寮ノ窓ヨリ見入テ居タリ。若僧双紙キリニテ。蛇ノ目ヲツキケレバ。憐ノ寮ノ僧。アツト云テ呼フ。其由ヲ聞バ。俄ニ片目ツカレタリ。其後徧參シテアリキケルガ。蛇守闇ト人々云也。天正年中ノ事也。

其慳貪者生ナカラ餓鬼ノ報ヲ受事。付種々ノ苦ヲ受事。江州肥野ノ谷。石原村ニ道節ト云福人有。慳貪無道心ナルコト類無七十歳ニテ生ナカラ。餓鬼ト為テ。大食限リ無一日ニ四五外食。終ニアカキ死ス。六十日目ニ已カ婦ニ取付食。喰タシクト呼ハルコト十日斗也。是ハ様々吊ケレバ。煩テ

本腹ス。彼道節兄モ。乾キ病ニテ大食限リ無。又攝ニ食ヲ入。晝夜共ニ喰次第ニ喰セケルガ。百日程際限モ無。終ニ死シケリ。大塚ニテ慳ニ聞也。○江州カバタ村。孫右衛門ト云者。法躰シテ西源ノ名付。或夜大人道ニ責ラシ。其後荒野ニ縛リ約サシ。火ニ入水ニ入。色々呵責セラル。程ニ後ニワ雪陰ナトニ隕レケレドモ。尋子出シテ責終ニワ五十日程ニ責殺シタリ。所ノ代官治右衛門語ヲ。平右衛門聞テ語也。○越前鶴河ニ陰シ無無限者有。貪欲深キ者也。寛永九年六月ノ末ニ。難病ヲ受。眼ヲ血程ニ見出シ。金銀ヲ取出シ積セ。此金ニテ養性シテ命ヲ助ヨト云テ苦ミケリ。今日死ヌ。今死ヌト云テ。廿日程強ク苦痛シテ。怖布有。撲ニテ死ス。押籠テ置テ。又活返。刺回リケルヲ。敲ケトモ死セズ。為方無終

殺ス也。死骸ノ捨擲知タル者無。○京西魚屋町ニ骨屋與宗
右衛門ト云者有。内裏摸工者ヲ上ル魚屋也。勝テ懼貪
ノ者ナリシカ。老テ後本願寺ニテ。剃刀ヲ頂キ法躰セントス
ル。髮更ニ切ズ。剃刀七本合セテ取替ク剃ドモ切ズ。餘リ
為方無。鉗ニテ挾切テ置ケリ。死期ニ決ノ病ヲ受在ケル程
ニ。数多看病シテ居タルニ。何ノ間ニカ井ノ中ニ入テ死ニケリ。
寛永十七年ノ事也。水翁物語也。○攝州大坂天滿高倉屋
庄衛門ト云者ノ母。勝テ懼貪ナル者ニテ。恒ニ婦ヲセコメケル
ヲ限リナシ。七十餘歳ニテ煩付。命限ノ時怖布有様ニテ
死ス。三日目ニ大ナル蠶蚊屋ノ内へ入テ。婦ニ食著コト度々
也。下女心得テ。此蠶ヲ捉テ懸シメ。惡口シテ敲出シケレバ。
再来ス。其後婦ヲ許シテ。寺社堂塔工參詣サセニナリ

○京新在家角屋末春女房。常ニ煩故。末春悔テ。昨人ワ女
房ノ管ヲ以テ世ヲ渡ニ。其方が様ニ常ニ煩テ。何ノ用ニモ
立ズ。男ノ苦勞ニナル。死ナバ早ク死ニモヤラテト。折々云ケ
ル。則ニ女房煩重リ。死期ニ及時。末春ヲ近付テ。我母比煩
ニ付。早々死子ガレト。度々申サレケルガ。唯今柑果ル間。父定
テ本望タルベシト云。末春モ少イブセク思何ニ角陣ニケトド
モ。女房聞モ入ス。終ニ死ス。扱一兩月過テ。夜半ノ比。末春カ
家ノ裏ノ口ヲ敲ク。末春寢間近間起テ。何者ゾト云ハハ。
我女房ノ聲ニテ。此戸ヲ明給ヘト云。末春以ノ外ニ驚キ。寢
間へ逃入戸ヲ鎖シテ居ケル。此戸ヲ明給ワス。表ノ口
へ回ルベシト呼ルト否。表ノ内ヲサリト明テ。寢間ニ走リ入
テ。末春カ肩ニモタカコ咬付。内ノ者共聞付。火ヲ燃

見ハ末春殺入ス其家人向ニ宗愚ト云醫者ナリ
ヲ與ヘテシハ漸々活返ル此亦命テ後迄牙迹失ス同所ノ
正庵ト云人委知テ語也寛永ノ始メノ事也 終

師平日人未右ノ如ノ事ヲ語ヲ聞毎
ニ嘆ソ白カホト大事ナリヲ知ス人毎
死ハ士モ無マシ思ヒ後世ヲ恐ル人ナリ愚
ヲ慎ム者ナシ抑々笑止千方也亦曰知是
ノ物語ヲ聞テモ恐ル心ナキハ業障ノ
深故也ト云云誠ニ此書ヲ余所ニ見ハ
愚ナル心ナリ皆是人々一念上ノ事
也念力ノ作如右種々ノ事ヲ見
テ自己ヲ慚愧スヘシ經曰假使百千

十一

五

又

十

劫二毛所作ノ業不
 一時果報還テ自受ト説玉此文
 尹信ノ必要ヲモ成ヘカヲ不況ヤ亦
 一念總ニ生スレハ生死ニ輪廻シ求
 劫淨一無誰カ是ヲ悲サレヤ外
 何一カ大事アズヤ如是見得ト心頭
 二眼ヲ著ハ此書ノ本意ナリ若又目
 目ラ念レテ他ノ事ト喜ハ佛祖モ亦救
 不得甚可懼開救助縁 報慈比丘書

愛知県図書館

Handwritten text in cursive script, including characters like 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十 and various symbols.

Handwritten text in cursive script, including characters like 十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十 and various symbols.

Handwritten text in cursive script, including characters like 二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十.

Handwritten text in cursive script, including characters like 三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十.

Handwritten text in vertical columns on the right page, featuring several large circular diagrams or symbols interspersed with the characters.

Handwritten text in vertical columns on the middle page, featuring several large circular diagrams or symbols interspersed with the characters.

Handwritten text in vertical columns on the left page, including the characters '太二' and '鳴'.

Handwritten text in vertical columns on the far left page, including the characters '鳴' and '鳴'.

Handwritten text in cursive script, including several circled characters and vertical columns of text.

Handwritten text in cursive script, including several circled characters and vertical columns of text.

Handwritten text in cursive script, including several circled characters and vertical columns of text.

Handwritten text in cursive script, including several circled characters and vertical columns of text.

